

二十九番地先に至る電車通を最高千個、錦糸町及松代町二丁目内の私道を最低五百二十五個としたり、路線價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は九百七十四個、柳原町二丁目二十五番ノ一にして、最低は四百四十五個、柳原町一丁目五十七番なり。

宅地全筆の總指數は四千五百六十二萬六千七百八十七個にして、之を宅地總面積の八萬二千三十八坪八合六勺にて除したる平均坪當指數は五百五十六個なり。

借地權利割合は市有河岸地を五割五分、其の他一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十四年十二月十七日及昭和二年七月十八日の二回に、整理後各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年十二月二十六日より昭和二年七月十八日迄九回に亘り土地區劃整理委員會に各附議したるに、何れも同四年一月二十二日原案の通可決せり。

整理後の土地評價には整理前と同様乙及丙の兩率を適用し、尙横十間川沿ひの街路を廢したる結果、同川に河川價を附し丙率を適用したり、其の路線價指數は土地の整理狀況に依り五百五十個乃至千百十個と評定せり、即ち幹線第二號中整理前最高に相當する個所を最高千百十個、松代町二丁目内三米區劃整理路線を最低五百五十個と定めたり、而して路線價及河川價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千八十六個、柳原町二丁目二十五番ノ一にして、最低は二百三十四個、松代町二丁目二十五番なり。

換地全筆の總指數は四千三百四十萬九千八百七十八個にして、之を換地總面積の七萬三百四坪四合一勺にて除したる平均坪當指數は六百十七個なり。

借地權利割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、其の他一般宅地を三割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數、各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區	分	整	理	前	整	理	後

二百三十四個、松代町二丁目二十五番なり。
 換地全筆の總指數は四千三百四十萬九千八百七十八個にして、之を換地總面積の七萬三百四坪四合一
 勺にて除したる平均坪當指數は六百十七個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、其の他一般宅地を三割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數、各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示
 すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區	分	整理前		整理後	
		指數	價格	指數	價格
路線價	最高	1,000 <small>圓</small>	210.00 <small>圓</small>	1,110 <small>圓</small>	233.10 <small>圓</small>
	最低	55	110.25	50	115.50
各筆坪當	最高	97	214.54	106	238.06
	最低	49.5	93.45	34	49.14
宅地總平均坪當	最高	56	26.6	67	29.5
	最低	56	26.6	67	29.5

備考 指數單價は二十一錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區	分	整理前		整理後	
		指數	價格	指數	價格
所有權	外	37,881.80 <small>圓</small>	7,953,522.20 <small>圓</small>	37,760.52 <small>圓</small>	7,732,970.92 <small>圓</small>
	借地權	6,833,470	1,450,087.0	6,633,86	1,393,103.46

第五十一地區 甲 整理地

合 計	四、七六、二九〇 九〇、四九七	九、三九〇、四三〇・九〇 一、九一、四〇三・七七	四、四〇三、八七	九、一七〇、四三八
-----	--------------------	-----------------------------	----------	-----------

備考

- 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
- 二 整理前總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは四五、六二六、七八七個なり。

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和三年十二月十七日土地區劃整理委員會に諮問し、同四年一月二十二日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和四年一月十九日同委員會に諮問し、同年三月四日原案の通可決したるを以て、同月六日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月二十日認可、同日内務省告示第六十八號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第百十一號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は三月二十日より同月二十三日迄に、東京市復興事業局第四出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、其の後換地處分に關し一部變更の必要を生じたる爲、昭和四年十二月十七日右換地處分一部變更に關する件を、土地區劃整理委員會に諮問し、即日原案の通可決したるを以て、同月二十三日内務大臣に之が認可申請を爲し、同月二十八日認可、同日内務省告示第三百八十五號を以て換地處分一部變更認可の告示あり、依て即日東京市告示第六百四十一號を以て右換地處分の件同年十二月二十八日認可ありたる旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百四十八筆、整理後二百四十九筆、借地整理前六百五十七件、整理後六百五十四件なり、土地權利者

は所有權者整理前八十五人、整理後八十四人、借地權者整理前後共四百八十三人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要清算土地評定權利指數四千四百七十一萬六千二百九十個を以て、換地の評定權利指數四千三百四十萬九千八百七十八個を除したる比率〇・九七〇七八四四二七を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

同月二十三日内務大臣に之が認可申請を爲し、同月二十八日認可、同日内務省告示第三百八十五號を以て換地處分一部變更認可の告示あり、依て即日東京市告示第六百四十一號を以て右換地處分の件同年十二月二十八日認可ありたる旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百四十八筆、整理後二百四十九筆、借地整理前六百五十七件、整理後六百五十四件なり、土地権利者

は所有権者整理前八十五人、整理後八十四人、借地権者整理前後共四百八十三人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要清算土地評定権利指數四千四百七十一萬六千二百九十個を以て、換地の評定権利指數四千三百四十萬九千八百七十八個を除したる比率〇・九七〇七八四四二七を、整理前の各筆権利指數に乗じて整理前の比例権利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地説明書別	従前の土地			換地			計算上の清算			清算	
	面	積	比例権利指數	面	積	評定権利指數	徴收	交	付	徴收	交
甲	八二〇、六一〇・一 ^坪	二九、五〇〇・八 ^坪	三七、〇〇〇・〇三 ^個	七〇、五〇七・六三 ^坪	二、六〇〇・〇五 ^坪	三七、六六三・〇四三 ^個	二四、三〇六・六五 ^円	二五九、五三九・三三 ^円	一三、五四三・一二二 ^円	二、五七〇・一七 ^円	二四、三三三・七六 ^円
乙	—	三、三六六・三三	—	—	二八、一七二・四四	—	五〇、六七七・三五	二一、八五二・七六	—	四五、八三三・八一 ^円	一七、〇四八・三三 ^円
計	八二〇、六一〇・一〇三 ^坪	三三、八六七・一四〇	三七、〇〇〇・〇三 ^個	七〇、五〇七・六三 ^坪	二、六〇〇・〇五 ^坪	三七、六六三・〇四三 ^個	二四、三〇六・六五 ^円	二八一、三九〇・〇九 ^円	一三、五四三・一二二 ^円	二、五七〇・一七 ^円	二四、三三三・七六 ^円
		九、二六〇・七四 ^坪		九、二六〇・七四 ^坪		九、二六〇・七四 ^坪					
		四、四九八・八七 ^坪		四、四九八・八七 ^坪		四、四九八・八七 ^坪					

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有権と所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみ
の清算を掲ぐ。

二 従前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

第五十一地區 甲 整地

鐵道省	同	同	同	同	同	同	同	同	同
中村まつ	同	同	同	同	同	同	同	同	同
茅場町三丁目	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆	外三筆
二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四	二六、二四
一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三	一四、五七三
二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三	二、七〇・三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
宅地	宅地	宅地	宅地	宅地	宅地	宅地	宅地	宅地	宅地
一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五
賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権	賃借権
二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇	二七、五〇
内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇	一〇、四〇
私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ	私道敷なるによ
三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五

合計	所有権	賃借権	宅地	賃借権	私道敷なるによ
三六、六	三六、六	三六、六	三六、六	三六、六	三六、六
一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五
三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五	三九、五

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの
 東京市所有地軌道用地四筆三百九十八坪八合六勺、河岸地一筆五十九坪五合八勺、道路三十五筆二千四百九十一坪六合二勺、公園地二筆九百坪。
 内務省所有地道路二筆三百九十八坪、水路一筆十五坪三合二勺、潰地充當用買收地四筆八百十八坪六合七勺。

三 所有権以外の権利又は處分の制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの抵當権六十七件、賃借権假登記一件あり。
 - 二 處分の制限の指定を爲したるもの所有権假登記一件あり。
 - 三 未登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの賃借権六百五十六件あり。
- 備考 右の外係争中の賃借権七件、借地法第六條該當地十二件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年三月二十日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は二十五萬八千四百三十九圓二十三錢にして人員三百四十九人なり、又土地補償金は同月二十六日補償審査會に於て十六萬三千七百九十八圓十一錢人員五百六十九人と決定せられ同月二十七日其の通知を受けたり、依て同年四月十日補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したりしが、其の後石井某外五人に對する換地處分變更の件、同年十二月二十八日内務大臣の認可あり、又同五年二月十三日補償審査會に於て右石井

第五十一地區 甲 整地

某外五人に對する補償金の變更を爲したる旨、同月十七日通知を受けたるに依り同日充當處分の變更を爲したり、充當計算左表の如し。

摘要	徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付補償金	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
當初充當面	二五、四九・三	三九	一三、七九・二	五九	八〇、三四・七	三九	一七、〇七・四	二五	八三、四三・四	二九七
變更充當面	一五、三〇・九	三〇	一三、七九・二	五九	八〇、四五・〇	三八	一七、九五・六	二五	八三、三二・九	二九五
差引増△減	△ 一〇、一八・四	一	—	—	△ 〇・一〇	一	△ 一五・八	二	△ 〇・一〇	二

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、昭和四年四月十日充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は二十五萬八千三百七十圓九十八錢なりしが、内八萬四百五十五圓二十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引十七萬七千九百十五圓七十八錢にして人員二百五十六人なり。

右徵收人員二百五十六人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百二十三人なるも、内官公署分二件を除き差引百二十一人に對し分納申請期限を昭和四年四月二十五日とし、同月十日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの五十四人にして、資格者總數に對し僅に四割五分に過ぎざりしを以て同月二十七日未提出者六十七人に對

し更に同年五月十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの二十九人ありて結局申請者合計八十三人となり、資格者總數に對し約六割九分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年六月一日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區に於ける清算金徵收事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年七月より之が徵收を

右徴収人員二百五十六人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百二十三人なるも、内官公署分二件を除き差引百二十一人に對し分納申請期限を昭和四年四月二十五日とし、同月十日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの五十四人にして、資格者總數に對し僅に四割五分に過ぎざりしを以て同月二十七日未提出者六十七人に對

し更に同年五月十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの二十九人ありて結局申請者合計八十三人となり、資格者總數に對し約六割九分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年六月一日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區に於ける清算金徴収事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年七月より之が徴収を開始せり。

第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は二十五萬八千三百七十圓九十八錢にして、昭和四年四月二十三日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額十九萬七千七百十六圓六十八錢なり。

第六章 土地補償金

第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割四分三厘〇三五なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作

市負擔	小公園	九〇・五三	五〇一・二五〇	六九・五六五	四七二・五六九	五四二・一五四	△	四〇・九〇四
		一〇五、一六二・五〇	一四、六二・八五	九九、三九・四九	一二三、八五二・五四	△	八、五八九・八四	

總計	計	一、〇七〇・四	五五五、二七五	八三、六六八	四七二、五六九	五五五、二〇七	四〇〇・六八
	補償金額	三、五三〇・七	四三三、三九・六	五七、三六六・六	一九一、二四・三七	二四八、四三・〇五	一三三、七九・二
	人員	一、九六三、九六六	二七二、五〇八	九〇、四九七	一、一八三、〇〇五	七九、九六	
	人員	一、五五、〇〇七・五五	一七、三三三・九	九八、二九・四九	二六、五九三・四七	八、四四・八	

第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は十六萬三千七百九十八圓十一錢なりしが、内八萬四百五十五圓二十錢を徴收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は八萬三千三百四十二圓九十一錢(人員二百九十五人)にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	補償金額	人員	補償金額	人員	補償金額	人員
國負擔	一五、三三・八三	五八	八〇、四五・二〇	三六	七四、九八・三三	二九四
市負擔	八、四四・二六	一	—	—	八、四四・二六	一
計	二三、七八・二	五九	八〇、四五・二〇	三六	八三、四二・五九	二九五

第四 補償金の交付

本地區に於ける市負擔直接交付額八千四百十四圓二十八錢は本所區役所に於て、昭和四年五月十五日其の支拂を了したり。

國負擔補償金總額十五萬五千三百八十三圓八十三錢中、徵收清算金に充當したる金額八萬四百五十五圓二十錢は、昭和四年三月三十一日本所區役所に納付し、直接交付額七萬四千九百二十八圓六十三錢は、同年四月之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額七萬三千八百六十六圓三錢にして、交付濟額合計十五萬四千三百二十一圓二十三錢なり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更六十六件、土地名義人表示更正及變更七件、土地分合筆百四十九件、所有權保存二件なり。

第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前百九十二筆、整理後二百二筆にして、建物囑託件數は要登記のもの四百三十一件なり、囑託書を東京區裁判所林町出張所に提出したるは昭和四年五月二十七日にして、登記の完了は同年六月十二日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日、即ち昭和四年三月二十日より約三箇月に亘れり。

第二節 地價配賦

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告

昭和三年三月五日

一 工事著手届

同日

一 工事完了届

昭和四年三月二十七日

第二節 地價配賦

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- 一 土地區劃整理施行申告 昭和三年三月五日
- 一 工事著手届 同 日
- 一 工事完了届 昭和四年三月二十七日

第二 地價配賦

地價配賦案は昭和四年三月二十七日之が作成を了し、同年三月二十九日兩國橋稅務署長に提出し、同年五月七日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は二十三萬千六百七十二圓七十五錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は三萬五千七百四十四圓五十錢なり、之を前述の地價總額二十三萬千六百七十二圓七十五錢より控除したる十九萬五千九百二十八圓二十五錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は六圓十五錢二一七三一なり。地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
五八、四二・六七 ^坪	四九、四五・三九 ^坪	九、〇七・二八 ^坪

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前面積	同上總地價	坪當平均地價
五八、四二・六七 ^坪	二三一、六七・七五 ^円	三・九六四 ^円

三 控除せらるべき地價

有租地 減歩面積引	坪當平均地價	控除地價
九、〇七・二六 ^坪	三、九六四 ^円	三五、七四・五〇 ^円

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租 總指數	配賦地價額	指數千個當 配賦地價額
三、八四六、九九 ^個	一五、九八・二五 ^円	六、一五二・七三 ^円

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に従ひ地目別に掲記すれば左のし。

整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地	宅地	五七、三三・七二 ^坪	一四三	四九、四五・三九 ^坪	二二七	坪	七、九八・三三 ^坪	七	一
市有免租地	公園地	九〇〇・〇〇	二	—	—	—	九〇〇・〇〇	—	二
	敷道	三、三〇・八六	六	二、八四・一四	二	—	四六・七二	—	四
	軌道	二、四九・六二	三五	—	—	—	二、四九・六二	—	三五
	用路	三、八九・四一	一四	三、四九・八七	—	—	四九・五〇	—	—
	河岸地	九、三〇・六〇	二	八、一四三・四五	一	—	一、一六六・一五	—	一
	隔離病舎敷地	一九、六六・四九	五	一四、四七・四六	三	—	五、四四・〇三	—	二
區有免租地	公立學校敷地	一、〇三・五〇	四	九八・一四	一	—	五四・〇六	—	三

府有免租地	公立學校敷地	六、一〇五・二九	二	五、五八・四七	—	—	五八六・八二	—	—
公共敷地	共同敷地	六・二〇	一	七・四八	—	—	—	—	—
物揚場	計	六、二二・四九	三	五、五三・五五	二	—	五八六・八二	—	—

乙 建物其の他の工作物移轉

第一章 整理前の建物

第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は八萬二千三十八坪八合六勺にして、之に所在する建物の總棟數は千九百八十七棟此の延坪數三萬八千五百二十二坪三合五勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は四十一坪二合九勺、同建物延坪數は十九坪三合九勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの千八百五十五棟にして、爾餘の百三十二棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉建物 棟數	延坪數	不要移轉建物 棟數	延坪數
木造建物	一、九三三	五、四六・八六 ^坪	一、八四二	三、三五四・五四 ^坪	二九	三、一三三・三三 ^坪
石造平家	二	八・五七	二	八・五七	—	—
煉瓦造平家	一〇	二六・三四	八	二五・九	二	六・四三
同階	七	一八・〇九	三	六・〇六	四	一〇・五二
同階	一	六・五〇	一	六・五〇	—	—
鐵骨造平家	二五	二、七三・二九	二〇	一、二五・八七	五	一、四七・四二
同階	五	二六・四〇	五	二六・四〇	—	—

種別	建物總數に對する百分比	
	棟數	延坪數
鐵筋コンクリート造二階建	二	三・〇〇
同階	—	四・五〇
土藏造二階建	一	六・〇〇
計	一、九六七	三六、五三・三五
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

第五十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

觀物	席亭	娛樂場	浴場	理髮店	運送業	工場	小工場	倉庫	自動車	其他	計
一	一	二	六	七	三	九	一九	一〇九	一〇	八三	一、八五五
〇・五	〇・五	〇・一一	〇・三三	〇・九二	〇・六五	四・九一	一〇・三〇	五・八八	〇・四	四・四七	100・00
一六四・〇〇	二・五〇	四・〇〇	三〇九・八七	二八九・三三	二五・九八	四、八三四・四四	三、七五・二二	三、〇四・五五	一五〇・五二	四三三・四二	三四、〇三・一七
一六四・〇〇	二・五〇	二〇・〇〇	五・六四	一七・〇一	一八・八三	五三・二三	一六・六三	二八・三九	一五・〇五	五・三三	一八・三五

四七〇

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの建物六百五棟、工作物二十二件、内許可せられたるもの建物五百一棟、工作物十六件、許可せられざりしもの建物百四棟、工作物六件なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの建物六十二棟、工作物四件なり。

第二章 移轉計畫

本地區は之を五十一箇の移轉群に分ち、大正十五年三月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年十月一先移轉計畫を終了せるも、其の後に至り錦糸町百四十七、百九十三番所在汽車製造株式會社東京工場に對する移轉計畫を變更したる結果、更に移轉を要する建物六棟増加したるを以て、之に對する移轉計畫は昭和三年九月に及びたり。

たるもの建物六十二棟、工作物四件なり。

第二章 移轉計畫

本地區は之を五十一箇の移轉群に分ち、大正十五年三月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年十月一先移轉計畫を終了せるも、其の後に至り錦糸町百四十七、百九十三番所在汽車製造株式會社東京工場に對する移轉計畫を變更したる結果、更に移轉を要する建物六棟増加したるを以て、之に對する移轉計畫は昭和三年九月に及びたり。

而して要移轉建物千八百五十五棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの八百三十六棟にして四割五分を占め、之に次ぐは曳方の五百九十六棟にして三割二分に相當し、他は移築一部除却、移築、据置一部除却、曳方一部移築、除却、特別移築の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數							計
	曳方一部移築	曳方一部除却	移築	移築一部除却	据置一部除却	除却	特別移築	
木造建物	三	〇	一	〇	〇	〇	二	一、八四
石造平家	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
煉瓦造平家	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同二階	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同三階	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同鐵骨造平家	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同鐵筋コンクリート造二階	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
土藏造二階	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	三	〇	一	〇	〇	〇	二	一、八四
要移轉總棟數に對する百分比	〇・六五	〇	一・〇	〇	〇	〇	〇・一一	一〇〇・〇〇

備考 移轉工法中除却五棟、特別移築二棟あるは汽車製造株式會社東京工場の移轉に就き計畫したるものなり。

第五十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

前記計畫に依るときは要移轉建物千八百五十五棟此の延坪數三萬四千三十三坪一合七勺は、整理後に於て棟數五棟を減じ、坪數に於て一割二分九厘の縮少を來し、二萬九千六百四十三坪九合三勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種 別	整理前建物		整理後建物		差 引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造 家 建 物	一、八二四	三、三六、五四 ^坪	一、八二二	二六、四九、八〇 ^坪	三	三、八六、七四 ^坪
石造 平 家 建 物	二	八、五七	二	八、五七	—	—
煉瓦造 平 家 建 物	八	二五、九一	七	二〇、七四	—	四九、二七
同 階 建 物	三	六〇、三八	三	五九、二四	—	—
同 階 建 物	一	六、五〇	一	六、五〇	—	—
同 階 建 物	二〇	一、二五、七七	一九	七〇、三三	—	四五〇、五五
鐵骨造 平 家 建 物	一	一、二六、四〇	一	九二、八六	—	一三三、五〇
同 階 建 物	一	八、〇〇	一	八、〇〇	—	—
鐵筋コンクリート造二階建	一	六、〇〇	一	六、〇〇	—	—
土藏造二階建	—	—	—	—	—	—
計	一、八五五	三三、〇三、一七	一、八五〇	二九、六四、三三	五	四、三八、二四

建物の移轉實施期間を大正十五年七月より昭和三年七月迄の二年一月とし、大正十五年に於て百二十三棟、昭和二年に於て九百七十七棟、昭和三年に於ては九月迄に七百四十九棟の工事を完了することゝに豫定したりしが、其の後に至り第五十移轉群に於ける汽車製造株式會社東京工場の移轉計畫を變更したる爲、同工場の要移轉建物は曩の計畫棟數十五棟の外更に六棟を増加し計二十一棟と爲り、其の工期は昭和四年一月より三月迄となれり、又右工場の移轉計畫變更に伴ひ、之に關係を有する民有建物十一棟の工期を同年二月乃至三月と變更したる結果、昭和三年に於ては九月迄に七百二十三棟、同四年に於て

は三月迄に三十二棟を完了することゝなりたり。

前記汽車製造株式會社東京工場は、本所區錦糸町百四十七、百九十三番に跨り、其の敷地は七千餘坪、之に所在する建物三十二棟にして、之を製罐、組立、塗、鑄物、鍛冶、鋸盤、仕上の七主要工場に區分し、汽車及電車の製造を爲す大工場なり、而して同工場敷地の換地は大體現位置に指定せられたるが、

豫定したりしが、其の後に至り第五十移轉群に於ける汽車製造株式會社東京工場の移轉計畫を變更したる爲、同工場の要移轉建物は曩の計畫棟數十五棟の外更に六棟を増加し計二十一棟と爲り、其の工期は昭和四年一月より三月迄となれり、又右工場の移轉計畫變更に伴ひ、之に關係を有する民有建物十一棟の工期を同年二月乃至三月と變更したる結果、昭和三年に於ては九月迄に七百二十三棟、同四年に於て

は三月迄に三十二棟を完了することとなりたり。

前記汽車製造株式會社東京工場は、本所區錦糸町百四十七、百九十三番に跨り、其の敷地は七千餘坪、之に所在する建物三十二棟にして、之を製罐、組立、塗、鑄物、鍛冶、鋸盤、仕上の七主要工場に區分し、汽車及電車の製造を爲す大工場なり、而して同工場敷地の換地は大體現位置に指定せられたるが、工場南方の一劃は幹線第二號街路敷に當り、又東方の一劃は横十間川擴張敷に當る爲、此處に存する建物中組立工場二棟、鑄物工場一棟及塗工場二棟計五棟は支障部分を除却し、附屬建物七棟は曳方又は移築工法に依り換地内に移轉せしめ、又之に關聯して換地内に在る製罐工場建物二棟は据置一部除却、附屬建物一棟は曳方一部除却を爲すことに計畫を定め、其の工期を昭和三年六月二日より翌七月二十四日迄とし、同二年十月二十九日移轉命令を發したり。

然るに前記計畫に依るときは組立工場二棟の約五割に當る除却を要し、從て組立作業に對する能力を半減し、他の主要工場の生産能力に對する均衡を缺くに至るを以て、結局各工場を其の能率に應じ順次縮少設備替を爲すの外なく、斯くては工場全體の生産能力を三割方低下し、永久に損失を蒙むることゝなるを以て同社の忍ぶ能はざるところなるのみならず、之に要する費用は莫大なるが故に到底其の負擔に堪えざるに付、他に適當の地域を選定し、本工場と分離して作業し得べき工場例令鍛冶、鋸盤、鑄物工場等を之に移設し、其の跡に一部除却の豫定なりし組立工場其の他計五棟を移轉して現在の生産能力を維持したきを以て、此の計畫に基く補償金を下附せられたき旨陳情し移轉期日に至るも容易に工事に著手せず依然工場作業を繼續したり、依て當局に於て工場建物配置の作業能力に及ぼす影響等に付き更に慎重考慮の上之が移轉計畫變更の必要を認め、曩に移轉を命じたる建物十五棟に對しては一部工法を變更し、工期を昭和四年一月三十一日より同年三月十日迄に変更すると共に、更に前計畫に於て不要移轉と爲したる建物の内鍛冶、汽罐、鑄工場等の五棟は同會社に於て府下砂町に移轉する計畫なるを以て

協定の上之を除却することとし、捻切工場一棟は据置一部除却とし其の工期を同年一月二十五日より二月二十日迄に豫定し同三年十月二日移轉命令を發し以て圓滿に本件を解決したり。

第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年四月三十日第一次移轉命令として松代町一丁目の一部第三十三移轉群の二十一棟に對し移轉命令二十一通、同通知十通を發し、爾來引續き發令に努め翌昭和二年九月二十九日錦糸町の一部第五十移轉群の發令を以て一先之を終了したるも、其の後に至り計畫の變更ありたる爲更に移轉を要する建物増加したるを以て、昭和三年十月建物六棟に對する追加移轉命令を最後とし、要移轉建物千八百五十五棟の内協議移轉に依りたる三十八棟を除きたる千八百十七棟及工作物に對し、移轉命令千七百十五通、同通知千七百七十七通を發し茲に全部の發令を終へたり。

第二節 協議並直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物三十八棟、工作物三十二件あり、内建物二十九棟、工作物四件は官公署の所有にして、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物九棟、工作物二十八件は民有にして、何れも移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして、其の敷地が橋臺地々揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本

手續に依り二重移轉を爲したるもの二十一棟あり、之を橋梁別に示せば左の如し。

旅所橋 十一棟、撞木橋 五棟、松本橋 一棟、四之橋 一棟、中之橋 三棟

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの工作物二件あり、内一件は本市保健局の所管に係り同局の希望

に依り、其の地の一件は民有にして建物多專實施と祭之を發見とし爲其の多專方と交渉したるもの

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物三十八棟、工作物三十二件あり、内建物二十九棟、工作物四件は官公署の所有にして、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物九棟、工作物二十八件は民有にして、何れも移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして、其の敷地が橋臺地々揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本

手續に依り二重移轉を爲したるもの二十一棟あり、之を橋梁別に示せば左の如し。

旅所橋 十一棟、撞木橋 五棟、松本橋 一棟、四之橋 一棟、中之橋 三棟

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの工作物二件あり、内一件は本市保健局の所管に係り同局の希望に依り、其の他の一件は民有にして建物移轉實施に際し之を發見せし爲其の移轉方を交渉したるものに應ぜざるに依り、何れも直轄施行を爲したるものなり。

第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年六月建物及工作物の新築費並不動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し同年七月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年十月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること四十七回(變更案の決定を含む)にして、同年十二月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと九回に及び、翌四年三月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は左表の如く百十六萬四千六百圓十六錢にして、内國負擔額二十九萬八千四十七圓二十五錢、市負擔額八十六萬六千五百五十二圓九十一錢なり。

種別	棟數	延坪數	補償金	區分		額	坪當
				金	譯		
一般移轉	一、八五	三、〇三・一七 ^坪	一、二七、三九・二 ^円	建物移轉料 工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費	計	五九六、一〇・〇三 ^円 二四、〇六・六八 一九、三〇・一五 七四、六〇・三三 一八四、六九・四二 六八、九〇・五二	一七・五三 ^円 六・二九 〇・五七 二・一九 五・四三 二・〇二
橋臺地々揚に依る一重移轉	三	四九・九二	七、二七・〇五	建物移轉料其の他		七、二七・〇五	一四・六二
合計	一、八八	三、五三・〇八	一、三四、六六・一六			一、三四、六六・一六	三三・七三

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	一棟當延坪數	新築費	坪當單價
木造建物	一、八四	三、三六・五四 ^坪	一七・八四 ^坪	一、八三、五八・〇六 ^円	五・六二 ^円
石造家	二	八・五七	四・元	一、八四・二七	二九・八七
煉瓦造家	八	二五・九一	三・九	四〇、二四・〇五	一五・七五
同階建	三	六〇・六	二〇・二	一四、七二・八四	二四・六七
同階建	一	六・五〇	六・五〇	一九、六七・七〇	三九・八〇
鐵骨造家	二〇	一、一五・八七	五七・五九	六九、八七・八九	六〇・六七
同階建	一	一六・四〇	二二・二六	八、九三・五五	七六・六五
鐵筋コンクリート造二階建	一	八・〇〇	八・〇〇	一、五九・二〇	一九・九〇

土藏造二階建物	計	延坪數	補償金	新築費	坪當單價
一	一	六・〇〇	六・〇〇	一、四七・六〇	一七四・六〇
一	一	三、〇三・一七	三、〇三・一七	八九〇、二五・四七	二六・一六
一	一	一、八五	一、八五	二、八〇、六四・六三	八四・四

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

同	二階建	一三	六〇・六	二〇・三	一四、七二・八四	二四三・六
同	三階建	一	六・五	六・五〇	一九、六七・七〇	三九・八〇
鐵骨	造平家建	二〇	一、一五・八七	五七・五	六九、八七・八九	六〇・七
同	二階建	一五	一、一六・四〇	三三・二八	八、九三・五五	七六・六五
鐵筋コンクリート	造二階建	一	八・〇〇	八・〇〇	一、五二・二〇	一九・九〇

土藏	造二階建	一	六〇〇	六〇〇	一、四七・六〇	一七四・六〇
工	作	一	一	一	八九〇、二五・四七	二六・一六
計	物	一、八五	三、四〇、三三・一七	一、八五	二、八〇、六四・六三	八四・四

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年七月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し昭和三年十月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は翌四年三月に及びたり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十五年八月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額百十六萬四千四十圓六十三錢にして、内國負擔額二十九萬八千四十七圓二十五錢、市負擔額八十六萬五千九百九十三圓三十八錢なり。

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、大正十五年七月より昭和四年三月迄に完了する豫定なりしが、之が實施に至りては豫定の工程を見る能はず、最終工期たる昭和四年三月迄に工事完了の豫定なりし千八百五十五棟の内、千八百十七棟は豫定期間中に、殘餘の三十八棟は同年八月迄に、尙建物以

第五十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第五十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅るゝこと五箇月にして、全部の完了を見たり、之を移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの千八百七棟(代執行を爲したる一棟を含む)協議に依りたるもの三十八棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了		
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計	
大正十五年 昭和元年	四月	三	三	一	一	一	一	一	一	
	五月	五	八	一	二	一	二	一	二	
	六月	三	一一	一	三	一	三	一	三	
	七月	八	一九	一	四	一	四	一	四	
	八月	元	二〇	一	五	一	五	一	五	
	九月	八	二八	一	六	一	六	一	六	
	十月	二	三〇	一	七	一	七	一	七	
	十一月	一	三一	一	八	一	八	一	八	
	十二月	一	三二	一	九	一	九	一	九	
	昭和元年	一月	一	三三	一	一〇	一	一〇	一	一〇
	二月	一	三四	一	一一	一	一一	一	一一	
	三月	一	三五	一	一二	一	一二	一	一二	
昭和二年	四月	一	三六	一	一三	一	一三	一	一三	
五月	一	三七	一	一四	一	一四	一	一四		
六月	一	三八	一	一五	一	一五	一	一五		
七月	一	三九	一	一六	一	一六	一	一六		
八月	一	四〇	一	一七	一	一七	一	一七		
九月	一	四一	一	一八	一	一八	一	一八		
十月	一	四二	一	一九	一	一九	一	一九		
十一月	一	四三	一	二〇	一	二〇	一	二〇		
十二月	一	四四	一	二一	一	二一	一	二一		
昭和二年	一月	一	四五	一	二二	一	二二	一	二二	
二月	一	四六	一	二三	一	二三	一	二三		
三月	一	四七	一	二四	一	二四	一	二四		
四月	一	四八	一	二五	一	二五	一	二五		
五月	一	四九	一	二六	一	二六	一	二六		
六月	一	五〇	一	二七	一	二七	一	二七		
七月	一	五一	一	二八	一	二八	一	二八		
八月	一	五二	一	二九	一	二九	一	二九		
九月	一	五三	一	三〇	一	三〇	一	三〇		
十月	一	五四	一	三一	一	三一	一	三一		
十一月	一	五五	一	三二	一	三二	一	三二		
十二月	一	五六	一	三三	一	三三	一	三三		
昭和二年	一月	一	五七	一	三四	一	三四	一	三四	
二月	一	五八	一	三五	一	三五	一	三五		
三月	一	五九	一	三六	一	三六	一	三六		
四月	一	六〇	一	三七	一	三七	一	三七		
五月	一	六一	一	三八	一	三八	一	三八		
六月	一	六二	一	三九	一	三九	一	三九		
七月	一	六三	一	四〇	一	四〇	一	四〇		
八月	一	六四	一	四一	一	四一	一	四一		
九月	一	六五	一	四二	一	四二	一	四二		
十月	一	六六	一	四三	一	四三	一	四三		
十一月	一	六七	一	四四	一	四四	一	四四		
十二月	一	六八	一	四五	一	四五	一	四五		
昭和二年	一月	一	六九	一	四六	一	四六	一	四六	
二月	一	七〇	一	四七	一	四七	一	四七		
三月	一	七一	一	四八	一	四八	一	四八		
四月	一	七二	一	四九	一	四九	一	四九		
五月	一	七三	一	五〇	一	五〇	一	五〇		
六月	一	七四	一	五一	一	五一	一	五一		
七月	一	七五	一	五二	一	五二	一	五二		
八月	一	七六	一	五三	一	五三	一	五三		
九月	一	七七	一	五四	一	五四	一	五四		
十月	一	七八	一	五五	一	五五	一	五五		
十一月	一	七九	一	五六	一	五六	一	五六		
十二月	一	八〇	一	五七	一	五七	一	五七		
昭和二年	一月	一	八一	一	五八	一	五八	一	五八	
二月	一	八二	一	五九	一	五九	一	五九		
三月	一	八三	一	六〇	一	六〇	一	六〇		
四月	一	八四	一	六一	一	六一	一	六一		
五月	一	八五	一	六二	一	六二	一	六二		
六月	一	八六	一	六三	一	六三	一	六三		
七月	一	八七	一	六四	一	六四	一	六四		
八月	一	八八	一	六五	一	六五	一	六五		
九月	一	八九	一	六六	一	六六	一	六六		
十月	一	九〇	一	六七	一	六七	一	六七		
十一月	一	九一	一	六八	一	六八	一	六八		
十二月	一	九二	一	六九	一	六九	一	六九		
昭和二年	一月	一	九三	一	七〇	一	七〇	一	七〇	
二月	一	九四	一	七一	一	七一	一	七一		
三月	一	九五	一	七二	一	七二	一	七二		
四月	一	九六	一	七三	一	七三	一	七三		
五月	一	九七	一	七四	一	七四	一	七四		
六月	一	九八	一	七五	一	七五	一	七五		
七月	一	九九	一	七六	一	七六	一	七六		
八月	一	一〇〇	一	七七	一	七七	一	七七		
九月	一	一〇一	一	七八	一	七八	一	七八		
十月	一	一〇二	一	七九	一	七九	一	七九		
十一月	一	一〇三	一	八〇	一	八〇	一	八〇		
十二月	一	一〇四	一	八一	一	八一	一	八一		
昭和二年	一月	一	一〇五	一	八二	一	八二	一	八二	
二月	一	一〇六	一	八三	一	八三	一	八三		
三月	一	一〇七	一	八四	一	八四	一	八四		
四月	一	一〇八	一	八五	一	八五	一	八五		
五月	一	一〇九	一	八六	一	八六	一	八六		
六月	一	一一〇	一	八七	一	八七	一	八七		
七月	一	一一一	一	八八	一	八八	一	八八		
八月	一	一一二	一	八九	一	八九	一	八九		
九月	一	一一三	一	九〇	一	九〇	一	九〇		
十月	一	一一四	一	九一	一	九一	一	九一		
十一月	一	一一五	一	九二	一	九二	一	九二		
十二月	一	一一六	一	九三	一	九三	一	九三		
昭和二年	一月	一	一一七	一	九四	一	九四	一	九四	
二月	一	一一八	一	九五	一	九五	一	九五		
三月	一	一一九	一	九六	一	九六	一	九六		
四月	一	一二〇	一	九七	一	九七	一	九七		
五月	一	一二一	一	九八	一	九八	一	九八		
六月	一	一二二	一	九九	一	九九	一	九九		
七月	一	一二三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇		
八月	一	一二四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
九月	一	一二五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二		
十月	一	一二六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
十一月	一	一二七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四		
十二月	一	一二八	一	一〇五	一	一〇五	一	一〇五		
昭和二年	一月	一	一二九	一	一〇六	一	一〇六	一	一〇六	
二月	一	一三〇	一	一〇七	一	一〇七	一	一〇七		
三月	一	一三一	一	一〇八	一	一〇八	一	一〇八		
四月	一	一三二	一	一〇九	一	一〇九	一	一〇九		
五月	一	一三三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇		
六月	一	一三四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
七月	一	一三五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二		
八月	一	一三六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
九月	一	一三七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四		
十月	一	一三八	一	一〇五	一	一〇五	一	一〇五		
十一月	一	一三九	一	一〇六	一	一〇六	一	一〇六		
十二月	一	一四〇	一	一〇七	一	一〇七	一	一〇七		
昭和二年	一月	一	一四一	一	一〇八	一	一〇八	一	一〇八	
二月	一	一四二	一	一〇九	一	一〇九	一	一〇九		
三月	一	一四三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇		
四月	一	一四四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
五月	一	一四五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二		
六月	一	一四六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
七月	一	一四七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四		
八月	一	一四八	一	一〇五	一	一〇五	一	一〇五		
九月	一	一四九	一	一〇六	一	一〇六	一	一〇六		
十月	一	一五〇	一	一〇七	一	一〇七	一	一〇七		
十一月	一	一五一	一	一〇八	一	一〇八	一	一〇八		
十二月	一	一五二	一	一〇九	一	一〇九	一	一〇九		
昭和二年	一月	一	一五三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	
二月	一	一五四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
三月	一	一五五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二		
四月	一	一五六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
五月	一	一五七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四		
六月	一	一五八	一	一〇五	一	一〇五	一	一〇五		
七月	一	一五九	一	一〇六	一	一〇六	一	一〇六		
八月	一	一六〇	一	一〇七	一	一〇七	一	一〇七		
九月	一	一六一	一	一〇八	一	一〇八	一	一〇八		
十月	一	一六二	一	一〇九	一	一〇九	一	一〇九		
十一月	一	一六三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇		
十二月	一	一六四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
昭和二年	一月	一	一六五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二	
二月	一	一六六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
三月	一	一六七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四		
四月	一	一六八	一	一〇五	一	一〇五	一	一〇五		
五月	一	一六九	一	一〇六	一	一〇六	一	一〇六		
六月	一	一七〇	一	一〇七	一	一〇七	一	一〇七		
七月	一	一七一	一	一〇八	一	一〇八	一	一〇八		
八月	一	一七二	一	一〇九	一	一〇九	一	一〇九		
九月	一	一七三	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇		
十月	一	一七四	一	一〇一	一	一〇一	一	一〇一		
十一月	一	一七五	一	一〇二	一	一〇二	一	一〇二		
十二月	一	一七六	一	一〇三	一	一〇三	一	一〇三		
昭和二年	一月	一	一七七	一	一〇四	一	一〇四	一	一〇四	
二月	一	一七八	一	一〇五	一	一〇五	一	一		

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付、屢次誘導督勵を爲すも容易に其の
 第五十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第二節 代執行

昭和四年											昭和三年										
八	七	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十二	十一	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
										七			五		一	二	一	三		西	
										一、八五五			一、八四八		一、八四八	一、八四三	一、八四〇	一、八三九	一、八三六	一、八三六	
						〇		一		五	三	五	二	二	〇	一	六	五		七	
						一、八五五		一、八五五	一、八五三	一、八四三	一、八四二	一、八四二	一、八四二	一、八三九	一、八三六	一、八三七	一、八三七	一、八三七	一、八三六	一、八三六	
				八	四	〇			三		九	七	二	八	一	六	三	四	三	七	一
				一、八五五	一、八四七	一、八三三		一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	九四七
二	九	一	六	〇	一	二	二	六	七	三	三	一	三	一	四	九	七	九	五	四	八
一、八五五	一、八五三	一、八四四	一、八三三	一、八三七	一、八〇七	一、八〇六	一、八〇四	一、八〇二	一、七九四	一、七六四	一、六九四	一、五七一	一、五八九	一、二四四	一、〇〇七	九〇	八三	七七	六九三	六〇五	四五二

昭和二年				
九	八	七	六	五
月	月	月	月	月
	七	二	三	一
一、七三二	一、七三二	一、六七五	一、六四四	一、〇三三
元	五	四	三	三
一、〇三二	九八三	九七七	四三三	四〇七
一五	一五	六	三	七
七八四	六〇九	四五五	三八九	三三六
四〇	七	三	七	四
三七三	三三三	二六六	一四四	一七四

義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員二百二十七人、建物三百四棟、工作物三件ありたり。
前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲代執行を爲したる人員一人建物一棟あり、右は借地權に關する紛争の爲自ら移轉すること困難なりしに因るものなり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、大正十五年十月松代町三丁目二十四番に移動式住宅十八棟、同物置六棟を設置し同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て、順次増設を爲し昭和三年十二月迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數	設置撤去		期間		住		宅		容					
		年	月	住	物	世帶數	一棟當	人員	一棟當	世帶數	一棟當				
本所區松代町三丁目二十四番	一八	大正	一五、一〇	昭和	三、一	自大正	一五、一〇	同	上	一二三	六・七	五九	三〇・五〇	三四	五・六六
同 柳原町二丁目十一番	二〇	昭和	二、五	昭和	二、八	自昭和	二、八	同	上	五	二・七〇	二四六	一一・三〇	一三	四・〇〇
同 柳原町一丁目鐵道用地	五	昭和	二、八	昭和	四、一	自昭和	二、九	同	上	二六八	四・七	一、二四〇	三三・二四	八七	七・九〇
計	四三									四三三	四・六三	二、〇三三	二二・六三	一三三	六・六三

第四節 宅地造成

本地區は大面積を有する府立第三中學校、市立本所病院、市電氣局車庫等の用地に存する不要移轉建物多かりし爲工事件數僅に四十二件百六十二箇所にして内土留工一件一箇所間知石積工盛土工四十一件百六十一箇所なり。

計	同 柳原町一 丁目鐵道用地	五	二	昭和二、八	昭和四、一	自昭和三、九 至昭和三、三	同	上	二六八	四・七	一、二四〇	三・二四	八七	七・九〇
		四	二〇						四三	四・三	二、〇三	二・六	一三	六・六

第四節 宅地造成

本地區は大面積を有する府立第三中學校、市立本所病院、市電氣局車庫等の用地に存する不要移轉建物多かりし爲工事件數僅に四十二件百六十二箇所にして内土留工一件一箇所間知石積工盛土工四十一件百六十一箇所なり。

工事著手は大正十五年五月松代町三丁目二十四番の盛土工を最初としそれより建物移轉の進捗に伴ひ順次工事を施行し昭和三年十一月茅場町三丁目十五番の工事を最後とし四十二件の工事を全部完了せり、之に因る宅地造成完了總面積は七千三百八十三坪六合六勺なり。

前記の外旅所橋、撞木橋、松本橋、四之橋及中之橋の橋臺地々揚に因る宅地造成工事十件十六箇所あり、其の工事種別は盛土工八件十二箇所、土留工二件四箇所内板柵工一件三箇所此の面坪十六坪四六、大谷石積工一件一箇所此の面坪十一坪七四にして昭和四年十一月より同六年二月に至る間に橋梁工事の進捗に伴ひ逐次工事を施行したり、之に因る宅地造成完了總面積は四百九十二坪六合なり、以上の工事狀況を表示すれば左の如し。

一般宅地造成工事狀況

工事種別	工事 件數 箇所	數量	金額	内		營		請		譯	
				件數 箇所	數量	金額	件數 箇所	數量	金額	件數 箇所	數量
土留工	一	三、五〇 ^{兩坪}	三、八〇〇 ^円	一	一	一	一	一	三、五〇 ^{兩坪}	三、八〇〇 ^円	
盛土工	四	二、〇〇〇 ^{立坪} 四三	二、六八・五	三	二九・六 ^{立坪}	三、八三・九	一六	九八	一、七三三 ^{立坪} 四六	八、八四・七	
計	四	一	一六、五八・五	三	一	三、八三・九	一七	九八	一	三、六四・三	

第五十一地區

乙 建物其の他の工作物移轉

工事種別	工事 件數	工事 箇所	數量	金額	内		請		譯	
					件數	箇所	數量	金額	件數	箇所
土留工	二	四	面積 二八・二〇	三〇・四〇	—	—	—	—	面積 二八・二〇	三〇・四〇
盛土工	八	三	立坪 一七・六七	一、八三・五九	四	四	四	八	立坪 一五・六六	一、六六・二〇
計	一〇	七	—	二、一三・九九	四	四	六	三	—	一、九八・五〇

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱三百六十七本、管線路四千八十二間四、其の他二十五箇

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱三百六十七本、管線路四千八十二間四、其の他二十五箇所(一地區集計電柱百二十四本、管線路三千九十間八、應急整理一工事電柱五本、管線路四十三間六、其の他二十三箇所、假本整理電柱二百三十八本、管線路九百四十八間、其の他二箇所)及私有管線處理三百三十二件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事三百七十三件内道路後修を要したるもの三百六件なり、之を事業別に見るに水道工作物管線路二千六十間六、其の他六百八十件及十七箇所整理費三萬六千七百八十六圓九十七錢、東電工作物電柱三百六十七本、管線路四十八間六、其の他二千七十七件及八箇所整理費三萬三千四百二十八圓六十錢、瓦斯工作物管線路千九百七十三間二、其の他三百七十三件整理費一萬九千八百八十五圓四十八錢、電話二件整理費六十七圓十一錢なり、而して本地區に於ける整理費は總計八萬九千四百六十八圓十六錢にして、内私有管線の四萬五百八十圓六十六錢を最高とし、一地區集計の二萬六千八百八圓七十一錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

種 別	市 水 道 局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		電 話		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
電 柱	1	円	24本	七、七四一・九三 円	1	円	1	円	24本 七、七四一・九三 円

第五十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第五十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

種別	昭和大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區計	管線路	一、六〇四・九三、五七一・九一	二、六・七	五〇・八八	一、四九二・二	四、七四四・〇〇	三、〇九〇・八	一八、三六六・七九	一、三、五七一・九一	二、六・七	一、六〇四・九三、五七一・九一
應急整理工事	電柱	四〇・三	八四四・四四	三・三	一〇・八〇	一、五四・二〇	一、五四・二〇	四・六	八五・二四	一、二四一・八〇	一、二四一・八〇
	管線路	一七	一、〇五八・〇二	六	一八三・七六	一、〇八〇	一、〇八〇	二	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇五八・〇二
假本	電柱	四二・五・四	二、五〇三・四七	一八・六	四一・五五	五・四〇	四、〇〇二・八九	九四八・〇	六、九四七・九一	二、三六・三	二、五〇三・四七
	管線路	二	六二・二二	二	六二・二二	二	六二・二二	二	六二・二二	二	六二・二二
私有管線	管線路	六八〇・一七、〇〇六・八〇	二、〇〇七・一三、九八八・九八	三三	四八・〇五	二〇	九三〇・八二	三三	四八・〇五	三三	六八〇・一七、〇〇六・八〇
	其他	七三	一、八〇二・三三	三	四八・〇五	三	九三〇・八二	三	四八・〇五	三	七三
道路後修	管線路	二、〇〇〇・六	三、七六六・九七	四八・六	三、四八・六〇	一、九七三・二	一九、一八五・四八	四〇・八・四	八、四八・二六	三、一三三	二、〇〇〇・六
	其他	六八〇	六、一九三・三五	八	三、四八・六〇	三三	一九、一八五・四八	二	六二・二二	三三	六八〇
合計	管線路	一、六〇四・九三、五七一・九一	二、六・七	五〇・八八	一、四九二・二	四、七四四・〇〇	三、〇九〇・八	一八、三六六・七九	一、三、五七一・九一	二、六・七	一、六〇四・九三、五七一・九一
合計	管線路	一、六〇四・九三、五七一・九一	二、六・七	五〇・八八	一、四九二・二	四、七四四・〇〇	三、〇九〇・八	一八、三六六・七九	一、三、五七一・九一	二、六・七	一、六〇四・九三、五七一・九一

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	昭和大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
電柱	一〇本	六一九・三五	四本	二、七〇九・六八	六本	三、七三三・五四	一〇本	六一九・三五	—	—	二四本	七、七四一・九三

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區 管線路 電柱	10本	619.35	43本	2,709.66	61本	6,137.54	10本	619.35	24本	7,741.92	
應急 管線路 電柱	2本	94.57	1本	39.76	10,124.84	1,496.21	1,276.76	10.80	3,090.8	25.42	2,108.7
整理 管線路 電柱	2ヶ所	94.6	4ヶ所	24.73	96.76	1,560.4	844.44	10.80	43.6	85.24	1,241.80
其他 計		18.55		60.4	96.76	1,110.55	1,110.55	10.80	33.8	10.26	2,351.24
假 管線路 電柱			14本	65.50	1,011.92	8,300.21	3,002.21	10.80	33.8	10.26	10,267.91
整理 其他 計					287	1,793.74	480.36	4,638.6	94.0	6.97	6,947.91
私有 管線路 電柱	2件	1,070.35	1,440.18	6,636.23	1,593.30	6,454.00	1,946.67	3,401.1	3,133	40,506.66	17,275.35
道路 後修 計			24件	306.14	73.89	2,805.6	2,071.17	5,033.36	36	3,151.20	49,466.26
進捗歩合 %		18.68		33.67		35.04		5.33		89.46	100

第五十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

國市負擔區分

種別	一地區集計		應急整理一工事		假本整理		私管線		道路後修		合計
	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	
水道	四、七五〇・一七	八、八二・七四	一、九〇二・四六	一、九〇二・四六	二、五〇三・四七	三、〇〇八・五八	一、〇四七・五五	三、四六六・三二	一、二四三・二四	二、二九七・四四	三、五〇〇・五九
東電	二、七五七・四八	五、〇五五・三三	七、七九二・八〇	二、九八七	一〇、七九九・九八	一、六八五・七一	九、二四〇・〇二	一〇、九三九・七四	九、三六・一四	二、二三三・一〇	三、〇五九・二四
電瓦	一、六六〇・四〇	三、〇八三・六〇	四、七四〇・〇〇		四、〇〇二・八九	一、九〇六・五九	六、七九八・三〇	八、七〇四・八九	一、八三・五九	六、九二九	八、〇三・八八
斯電											
話											
計	九、一三八・〇五	一六、九七〇・六六	二六、一〇八・七一	一一九・八七	二、一三三・七三	二、三五二・三四	一七、二七六・三五	六、六〇〇・八七	二六、〇九・九七	三三、二一〇・八四	三三、二一〇・八四

年度別工事費支拂進捗状況

種別	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済	計
一地區集計	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一〇、二二二・五三	六、九三三・四五	八、八八八・七四	一、〇〇〇・〇〇	二六、一〇八・七一

道 路 後 修 計	市負擔		市負擔	計
	市負擔	國負擔		
合	三、七五〇・二〇	一、八〇二・三三	一、八〇二・三三	三、七五〇・二〇
計	二、七八五・一〇	九、〇〇一・八七	二、七八五・一〇	二、七八五・一〇
計	三、七六六・九七	二、七九五・三九	三、七六六・九七	三、七六六・九七
計	三、四八・六〇	五、四九三・三三	三、四八・六〇	三、四八・六〇
計	九、五七・七七	四一八・〇五	九、五七・七七	九、五七・七七
計	七、四七・三三	九〇・〇八	七、四七・三三	七、四七・三三
計	一、五、四四・九〇	三、七五〇・九六	一、五、四四・九〇	一、五、四四・九〇
計	一九、一八・四〇	一、五、四四・九〇	一九、一八・四〇	一九、一八・四〇
計	六、七・二	一、	六、七・二	六、七・二
計	六、七・二	一、	六、七・二	六、七・二
計	四〇、五〇・六六	三、一五・二〇	四〇、五〇・六六	四〇、五〇・六六
計	一八、三三・六六	七、一四六・五〇	一八、三三・六六	一八、三三・六六
計	八、九、四六・六六	一、	八、九、四六・六六	八、九、四六・六六

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		支拂未済	計
	進捗歩合%	金額	進捗歩合%	金額	進捗歩合%	金額	進捗歩合%	金額	進捗歩合%	金額		
一地區集計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
應急整理一工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
假本整理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
私有管線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
道路後修	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
進捗歩合%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱百八本、管線路三千六百六十五間一及之に關係せる各種工作物にして此の整理費三萬八百四十七圓六十八錢なり、而して假契約は水道工作物に關し大正十五年六月二日締結したるを、工事は東電工作物に關し昭和二年二月二十四日著手したるを、本契約は瓦斯工作物に關し同年十二月十二日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事状況を示せば左の如し。

事業	業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正一五、六、二	昭和三、三、三	昭和三、三、三	昭和三、六、二	昭和四、二、一八
東京電燈株式會社	大正一五、三、三	昭和三、三、三	昭和三、三、三	昭和二、二、二	昭和五、一、三
東京瓦斯株式會社	大正一五、三、二	昭和二、三、三	昭和二、三、三	昭和二、三、三	昭和五、三、一

工事施行中設計變更を爲したる件數十二件ありたる結果、電柱に於て十六本増加したるも管線路に於て七十四間三減少したる爲、工事費に於ても四千七百三十八圓九十七錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電柱		管線		管線路		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約設計變更後(精算)差引増△減	二〇八本 二四 一六	七、七三、七三 七、七四、九三 △	三、一六五、一 三、〇九〇、八 △	一三、〇三三、九六 一八、三六、七九 △	四、六九七、一七 △	三〇、八四七、〇六 二六、一〇八、七 四、七三八、九七	

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電柱		管線		管線路		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和十一年	一〇本	六九、三五	一	二八、〇八		六九、三五	二	
昭和十二年	四三	二、七〇、九六	九四、三	二八、〇八		二、九七、七六	三	

昭昭和計	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年		
二四	一〇	六	三、七九、三五	一、五〇、三	六、四二、三〇	一〇、二四、八四	三九	七、七四、九三	一、四九、二	二、六七、四一	二、二六、七六	四七
三、〇九〇、八	一、四九、二	一、五〇、三	一八、三六、七九	三、〇九〇、八	二、六七、四一	二、二六、七六	一〇〇	二、九七、七六	二、七〇、九六	二、八八、〇八	二、九七、七六	三

昭大	和正	十元	五年	年	一〇本	六九・五	二八八・〇八	六九・三五	二
和	和	二	元	年	四三	二七〇九・六八	二九七・七六	二	三

昭	和	三	年	年	六二	三、七九三・五四	一、五〇〇・三	六、四二・三〇	一〇、二四・八四	三九
和	和	四	年	年	一〇	六九・三五	一、四九六・二	二、六五七・四一	一三、二七六・七六	四七
計	計	計	計	計	二四	七、七四一・九三	三、〇九〇・八	一八、三六六・七一	二六、一〇八・七	一〇〇

支拂状況

昭	昭	昭	年	度	國	負	擔	市	負	擔	計	步	合	%
和	和	和	三	年	三	五九八・八九	六、六八三・六三	一〇、二八・五二	三九					
和	和	和	四	年	四	二、四八・一一	四、五〇九・三四	六、九七・四五	二七					
計	計	計	五	年	計	三、一一・〇五	五、七七・六九	八、八八・七四	三四					
						九、三八・〇五	一六、九〇・六六	二六、一〇八・七	一〇〇					

負擔別對照

負擔區分	潰地面積	比率%	市水道局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
			契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
國負擔	幹線街路費	三七	三、九九二・〇三	三、六四・四三	二、一一・五三	二、一〇・〇六	二、二五・三三	一、二八・八八	八、三八・八八	七、〇四・三六
國負擔	運河費	八	一、一八二・八二	一、〇八五・七五	六八・六〇	六三・四三	六五・三九	三七九・五三	二、四六・八一	二、〇八・六九
國負擔	計	三五	五、一七四・八五	四、七三〇・一七	二、七〇・三三	二、七七・四八	二、八七・七三	一、六〇・四〇	一〇、七九・六九	九、一三・〇五
市負擔	補助線街路費	三〇	二、九五七・〇六	二、七四・三八	一、五七・四九	一、五八・五六	一、六四〇・九九	九四八・八〇	六、一九・五四	五、三二・七四
市負擔	土地整理費	三九	五、七六六・二六	五、二九三・〇五	三、〇四・四二	三、三九・一九	三、一九九・九二	一、八五〇・一六	一三、〇三・〇六	一〇、一八・二四〇
市負擔	小公園費	六	八八七・一一	八四三・二二	四七・四五	四七・五七	四九二・二九	二八四・六四	一、八五〇・八五	一、五六六・五三
市負擔	計	空	九、六二〇・四三	八、八三二・七四	五、一〇七・三六	五、〇五・三三	五、三三三・一〇	三、〇三三・六〇	二〇、〇五〇・九六	一六、九七〇・六六
計	計	空	九、三三・〇〇	八、八三二・七四	五、一〇七・三六	五、〇五・三三	五、三三三・一〇	三、〇三三・六〇	二〇、〇五〇・九六	一六、九七〇・六六

第五十一地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正五年	二	四・五	一	一	二	九	一八・八五	八
昭和元年	一	三・六	一	一	三	九	六・六	四
昭和二年	三	一〇・三	四	一	四	一五・〇	一、二〇・三	四
昭和三年	二	四・八	三	一	四	一五・〇	一、二〇・三	四
昭和四年	五	一〇・八	三	一	三	一、二四・八	一〇・八	一
計	一三	三三・〇	一〇	三	一六	二、三三・一	二、三五・二	一〇〇

支拂状況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %	
	數量	金額	數量	金額			
昭和二年	二	一八・八五	一	一	二	一八・八五	八
昭和三年	三	四八・三七	二	一	五	四八・三七	三
昭和四年	四	五七・五	三	一	七	六六・七〇	二八
昭和五年	五	一六・八四	四	一	九	一六・八四	七
計	一四	一三〇・三	一〇	三	二四	一三三・一	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數三十四件整理費一萬七千二百七十六圓三十五錢全部市負擔にして

昭和二年七月二十二日東京電燈株式會社關係工作物の整理に着手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局三件金額二千五百三圓四十七錢、東京電燈株式會社二十七件金額一萬七百六十九圓九十九錢、東京瓦斯株式會社四件金額四千二圓八十九錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
昭 和 二 年	一四本	六五・五〇	一	—	—	—	六五・五〇	四
昭 和 三 年	二六	一、〇二・九二	二八・七	一、七九・七四	—	—	二、八〇・六六	一六
昭 和 四 年	一九二	八、三〇・三三	一九〇	四八〇・三三	二	—	八、八四・六六	五
昭 和 五 年	三六	三〇・六九	六〇・三	四、六三・八六	—	—	四、九六・五五	二九
計	三六	一〇、三三・三三	四八〇	六、四七・九一	二	—	一七、二六・三三	一〇〇

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	市 負	擔	
昭 和 三 年	—	一、三〇・八〇	八
昭 和 四 年	—	八、九〇・〇九	五三
昭 和 五 年	—	三、一三・六六	一八
計	—	一三、三四・五五	一〇〇

支拂状況

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年五月二十九日より之を開始し昭

和五年十一月十二日迄に全部の受付を了したり、而して工事は大正十五年五月三十日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し昭和五年十一月五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は三千百三十二件金額四萬五百八十圓六十六錢にして、之を事業別に見るときは水道六百八十件金額一萬七千六圓八十錢、東電二千七十七件金額一萬三千九百九十八圓九十八錢、瓦斯

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年五月二十九日より之を開始し昭和

和五年十一月十二日迄に全部の受付を了したり、而して工事は大正十五年五月三十日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し昭和五年十一月五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は三千百三十二件金額四萬五千八百八十六圓六十六錢にして、之を事業別に見るときは水道六百八十件金額一萬七千六圓八十錢、東電二千七十七件金額一萬三千九百九十八圓九十八錢、瓦斯三百七十三件金額九千五百七圓七十七錢、電話私設電話二件金額六十七圓十一錢なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・三九栓、電燈一・七四燈、瓦斯〇・二一個(計量器數なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 狀 況			支 拂 狀 況			計 況		
	件數	金 額	歩合%	國 負 擔	市 負 擔	合 計	件數	金 額	歩合%
大正五年	二	一、〇七〇・三五	二	二	四〇・六六	二	二	一五、二四	一
昭和元年	一、四〇〇	一、八六六・三三	四	八〇	六、六・六	三	二	三、五三・二	九
昭和二年	一、五九三	二、〇六五・四〇	五〇	二八六	四、六二・三	一、〇七六	一、三六二	一九、六三・五	四
昭和三年	一六	一四、〇・七	一	一八	二、七二・四	七	八、七三・六	二、五〇・六	二
昭和四年	一	三〇・〇	一	八五	一、三九・〇九	三九	三、〇六・五	四、〇五・六	二
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未 済	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三、一三三	四、五八〇・六六	一〇〇	二	八、九三三・七	△二、四九二・六	三、六六六・九	四〇、五八〇・六六	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂濟のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの三千九十件金額三萬三千百十圓八十四錢にして、内國負擔六百三十五件金額六千六百圓八十七錢、市負擔二千四百五十五件金額二萬六千五百九圓九十七錢なり、尙現金補償に屬するもの(移設費を含む)六百十八件金額七千四百六十九圓八十二錢にして、内國負擔百六十二件金額

二千三百六十二圓八十七錢、市負擔四百五十六件金額五千百六圓九十五錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

種別	水道		東電		瓦斯		電話		計	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
事業者拂	一六四	三、〇〇八・五	三九	一、六八五・七	八二	一、九〇六・五			六三五	六、六〇〇・八
	四七〇	一〇、四七五・五	一、六八八	九、二五四・〇	二九一	六、七九八・三			二、四五五	二六、五九・九
再設費	六四〇	三、四六六・二	二、〇七	二〇、九八九・九	三三	八、七四・九			三、〇七〇	三三、二〇・八
	四〇	一、〇五七・五	九	九三六・四	一七	一八三・五			一、五六	二、七六・九
補償	四五	一、〇一三・三	三三	二、二三・〇	五	六九・元			四〇	三、八四・七
	八	二、一五・五	四二	三、〇五・四	七	八〇・八			五七	六、〇〇・七
移設費	六	一八五・九							六	一八五・九
	三	一、九六・三							三	一、六三・三
個人	四〇	一、三八二・〇							四〇	一、四九・二
	一七〇	四、二五・七	八九	二、六二・六	八	二、〇〇・八			六四	八、九三・七
國負擔	五〇	三、七五・〇	一、六八八	二、七三・三	二九一	七、四七・五			二、四九一	三、六六・九
	六八〇	二〇、〇六・八	二、〇七	三、九八・九	三三	九、五七・七			三、二三三	四〇、五〇・六
合計	六八〇	二〇、〇六・八	二、〇七	三、九八・九	三三	九、五七・七	二	二	三、二三三	四〇、五〇・六

備考 合計件數欄中には再設費補償件數を含まず。

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は大正十五年十二月十日開始し昭和三年十一月三十日閉止の豫定なりしが、

建物移轉並道路工事の關係により同四年九月十五日之を閉止せり、而して翌五年一月三十一日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年一月十三日市水道局、東京電燈株式會社及東京瓦斯株式會社に對し一括許可又は承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は大正十五年十二月十日開始し昭和三年十一月三十日閉止の豫定なりしが、

建物移轉並道路工事の關係により同四年九月十五日之を閉止せり、而して翌五年一月三十一日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年一月十三日市水道局、東京電燈株式會社及東京瓦斯株式會社に對し一括許可又は承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は昭和二年二月九日市水道局に承認せるを最初としそれより逐次各事業者に許可又は承認を爲し、同四年十二月一日市電氣局に承認せるを最終とし要求工事三百七十三件、非要求工事七百七十五件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業者	一括占用許可 承認年月日	分割許可		要求工事 件	非要求工事 件	計 數
		最初年月日	最終年月日			
市水道局	昭和二、一、三	昭和二、二、九	昭和四、八、五	九	一九	二八
市土木局	昭和二、二、一	昭和二、九、九	昭和四、九、二	一	三	四
市電氣局	昭和二、二、三	昭和四、六、七	昭和四、三、一	一	二	三
東京電燈株式會社	昭和二、一、三	昭和二、二、三	昭和四、九、三	四	一五	一九
東京瓦斯株式會社	昭和二、一、三	昭和二、三、七	昭和四、八、五	一〇	六〇	七〇
遞信省	昭和二、一、三	昭和二、一〇、一	昭和二、一〇、一	一	一	二

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は三百七十三件其の延長三千八百十六間七八、掘鑿面坪千九十一坪にして之を事業者別に見るときは市水道局九十二件其の延長二千五百二間〇三、掘鑿面坪七百六十一坪三八、東京電燈株式會社四十一件其の延長三百五間〇五、掘鑿面坪百四十七坪二、東京瓦斯株式會社二百四十四件其の延長千九間七、掘鑿面坪二百八十二坪四二なり、尙之を類別すれば大掘鑿四十九件其の延長二千

第五十一地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

合 計	市 水 道 局		東 京 電 燈 株 式 會 社		東 京 瓦 斯 株 式 會 社	
	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額
六、九六・五	四	三〇五・〇五	二	七二・〇	四九二、九八三・六	九七〇・八三
六三・四	一七・〇	一四七・〇	二二・七	二二・七	三三六	八三・一八
五五・六	一	一	二七・五〇	一	一四・九二	二五二・〇
一四・九二	一	一	七・二五	一四〇	三三三	一〇〇・七〇
二五二・〇	一	一	一〇〇・九七〇	一	三、八二六・六	一、二九一・〇〇
七六・三六	一	一	一四七・二〇	一	一	一
一四七・二〇	一	一	一	一	一	一
一、二九一・〇〇	一	一	一	一	一	一

前記要求工事三百七十三件の内道路後修を要したるもの三百六件金額三千百五十一圓二十錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業 者	昭 和 三 年 度		昭 和 四 年 度		昭 和 五 年 度		支 拂 未 済		計
	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	
市 水 道 局	四	二〇八・六	三	二九一、四二・六	一	一八・三	一	一、八〇二・三	
東 京 電 燈 株 式 會 社	八	一四八・三	五	一三九・五	一	二七・六	一	四八・〇五	
東 京 瓦 斯 株 式 會 社	五	三三・二六	四	六八・〇九	一	一	一	九〇・八二	
計	一七	三九〇・一六	一二	五〇九・一五	三	四六・〇	三	二、一四一・一〇	

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は七百七十五件其の延長七千六百五十二間五四、掘鑿面坪三千二百二十四坪二二にして、之を事業者別に見るときは市水道局百四十九件其の延長二千二十間七、掘鑿面坪五百八十三坪九、市土木局下水課三件其の延長千二百二間九八、掘鑿面坪千四百四十九坪七五、市電氣局二件其の延長百一間一三、掘鑿面坪三十六坪九七、東京電燈株式會社十五件其の延長百三十三間一、掘鑿面坪四十九坪八二、東京瓦斯株式會社六百五件其の延長三千七百六十六間六三、掘鑿面坪千八百八十七坪四八、遞信省一件其の延長四百二十八間、掘鑿面坪二百十六坪三なり、尙之を類別すれば大掘鑿六十六件其の延長五千四百八十一間〇一、掘鑿面坪二千六百十七坪〇三、小掘鑿七百九件其の延長二千七百七十一間五三、掘鑿面坪六百七坪一九なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

市水道局	一〇	一、二五・四〇	三六・五六	一五	八五・三〇	三三・三三	一四九	二、〇〇・七〇	五八・九〇
市土木局	三	一、〇三・九八	一、四九・七五	一	一	一	三	一、〇三・九八	一、四九・七五
市電氣局	二	一〇一・三	三六・九七	一	一	一	二	一〇一・三	三六・九七

合計	一五	一三三・一〇	四九・八二	一五	一	一	一五	一三三・一〇	四九・八二
東京電燈株式會社	三	二、四〇・四〇	八〇・六	五七〇	一、二六・三三	一	一五	一三三・一〇	四九・八二
東京瓦斯株式會社	一	四八・〇〇	二六・三〇	一	一	一	一	四八・〇〇	二六・三〇
遞信省	一	四八・〇〇	二六・三〇	一	一	一	一	四八・〇〇	二六・三〇
計	六	五、四八一・〇一	二、六七・〇三	七〇九	二、二七・三三	一	一五	七、六三・四〇	三、三〇・三三

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年一月三十一日之が作成を了し市土木局に引繼を爲せり、其の臺帳記入工作物は電柱三百二十二本、管線路一萬三十七間一八にして、之を類別すれば新設せるもの電柱百八十一本、管線路七千六百九間〇三、撤去せるもの電柱百四十一本、管線路五百五十四間六五、埋殺せるもの千八百七十三間五なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設	撤去	埋	殺	計
水道	二、八七・五	二四・一〇		一〇・五	三、〇一・五
市電	一、〇一・九	一本			一、〇一・九
市電	二	一本			一
市電	一五	一四			一
市電	八四・四〇				八四・四〇
市電	一三〇・三	一三			一五三・九五
市電	四六・〇〇				四六・〇〇
市電	二、九三・七	三六			三、二九・七
瓦		三六・九		一八三・〇	五、二五・六〇

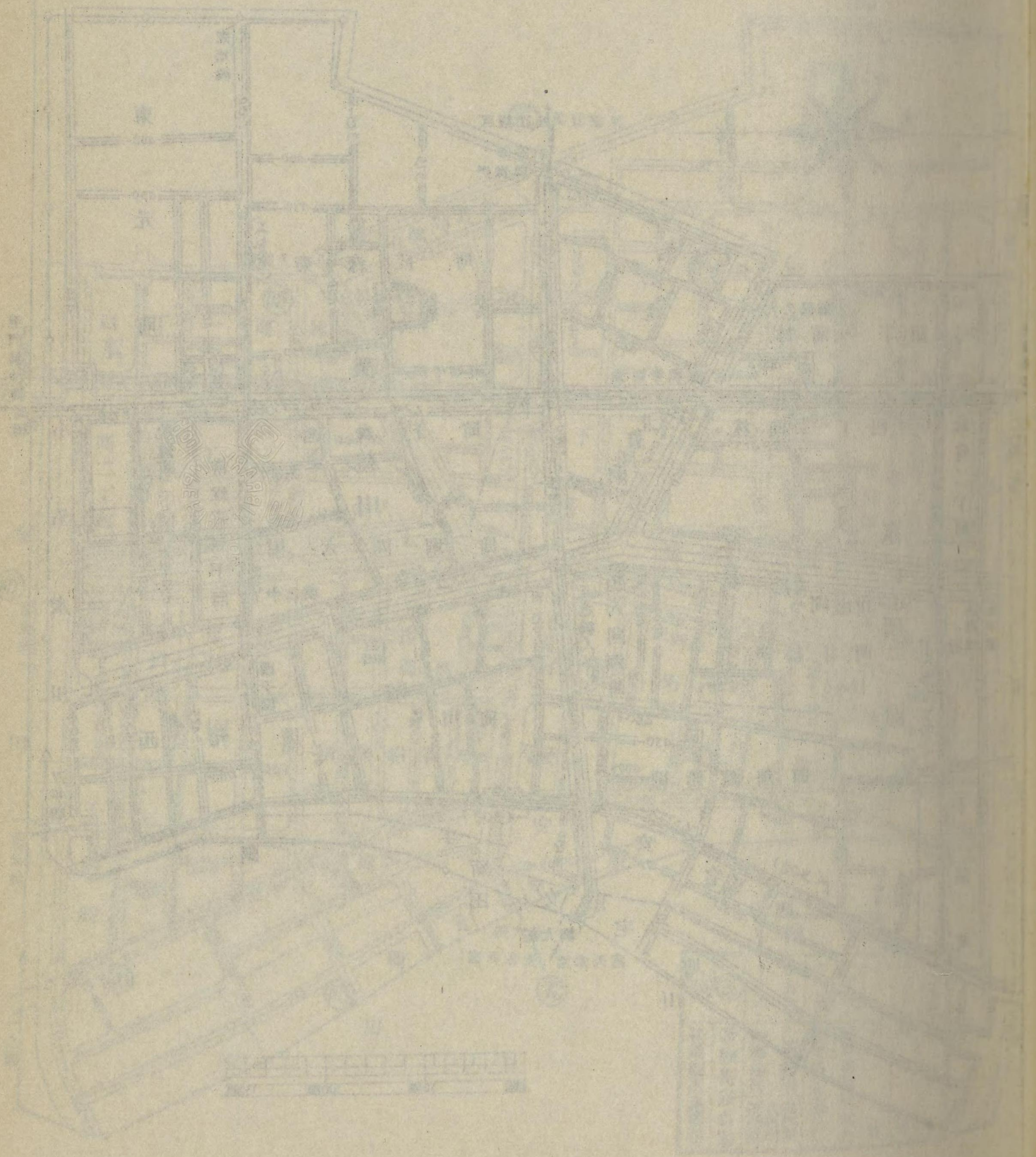
第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第五十二地區

第五十二圖

御製長江圖

(卷一)



第五十二區整理前後概況

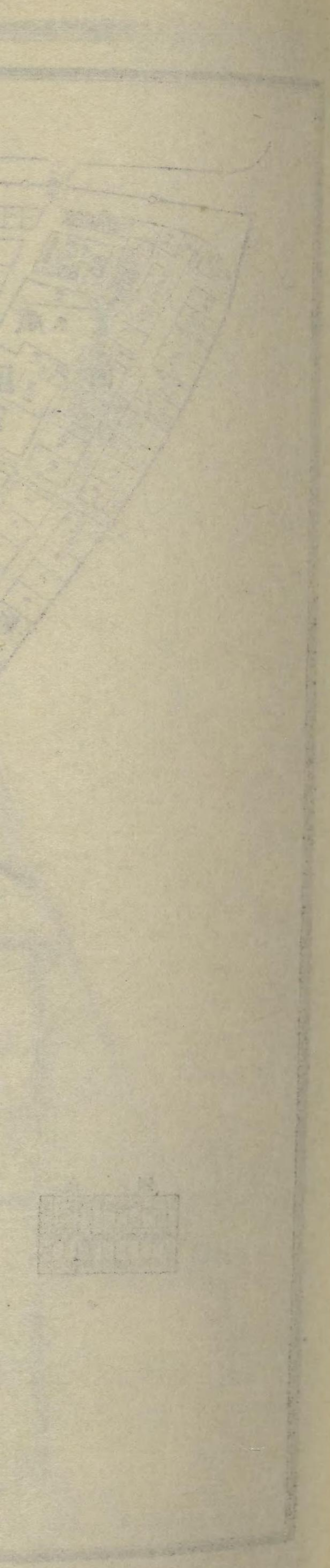
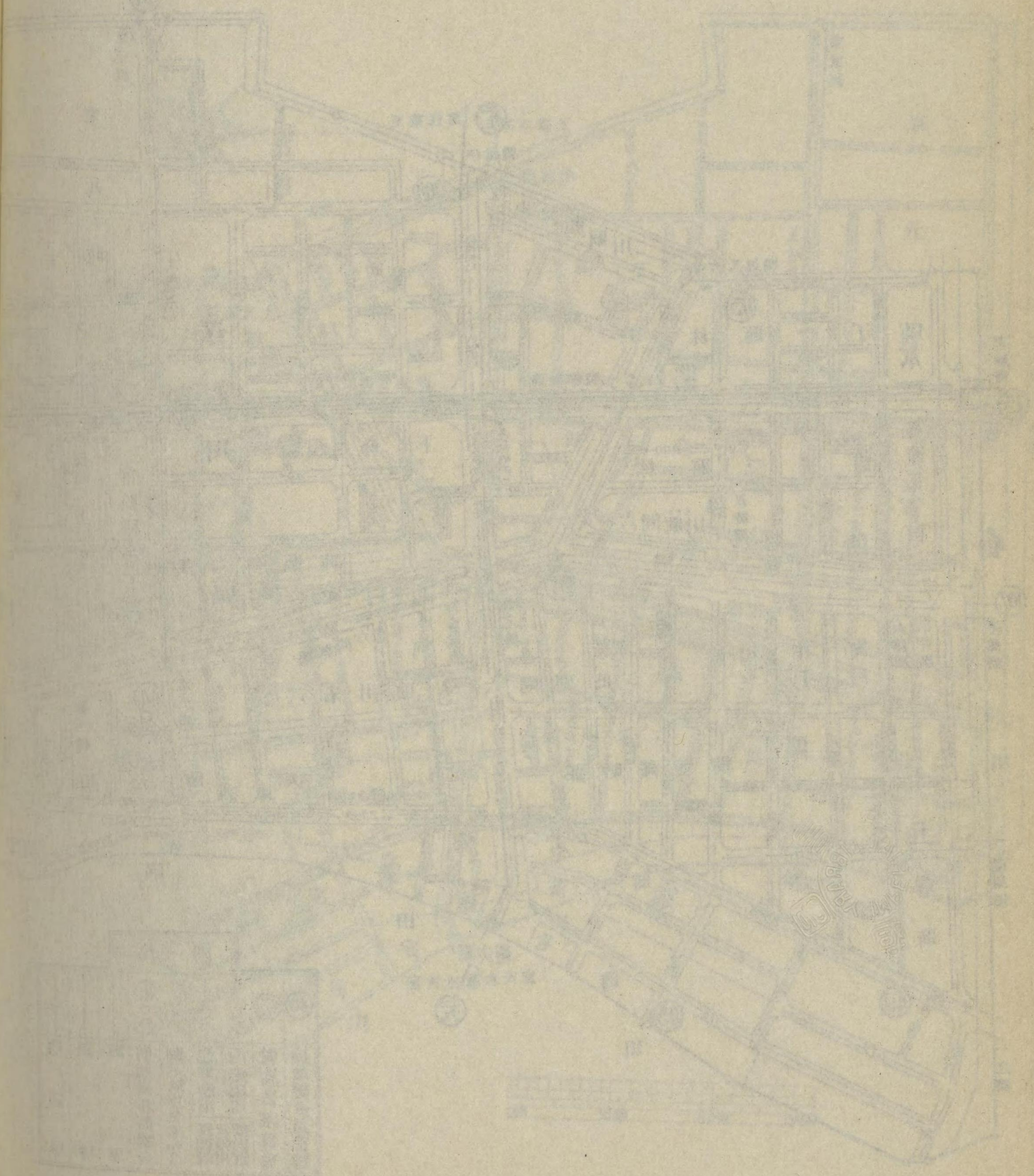
(前 理 整)



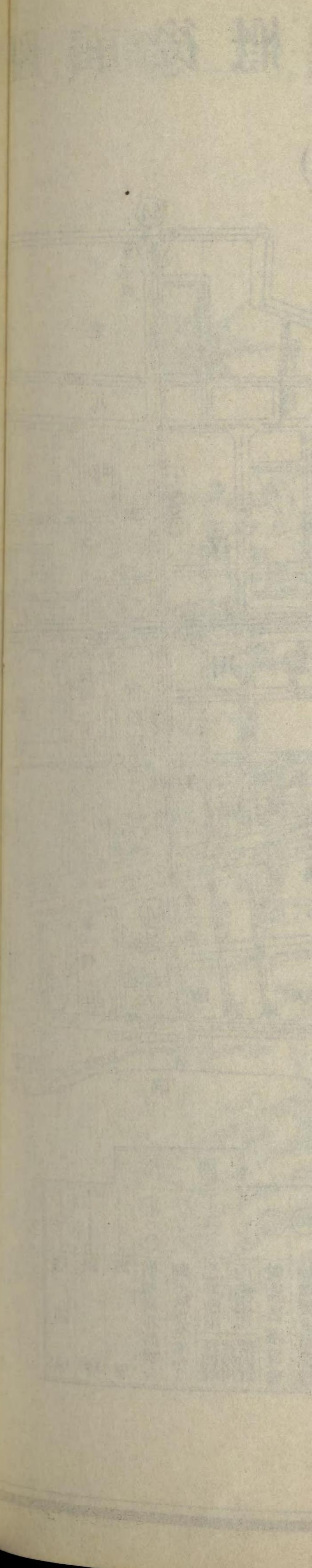
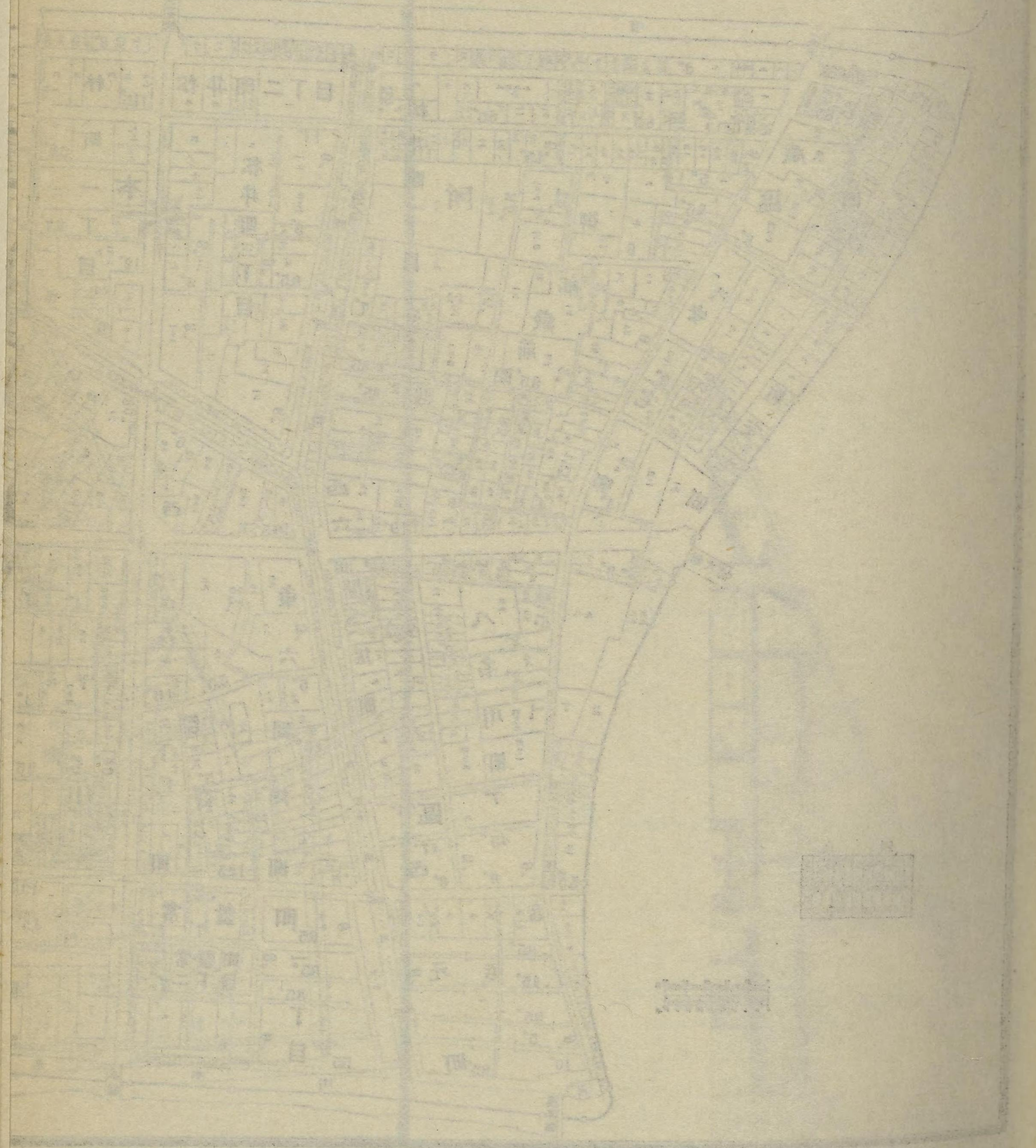
例 凡	
(40)	補助線街路番號
○	幹線街路番號
→ 320	丙率適用
→ 225	乙率適用
(35%)	圖示以外全部
(30%)	借地權利割合
—	町界
—	區界
—	地界

清江府城圖

(城內四門)

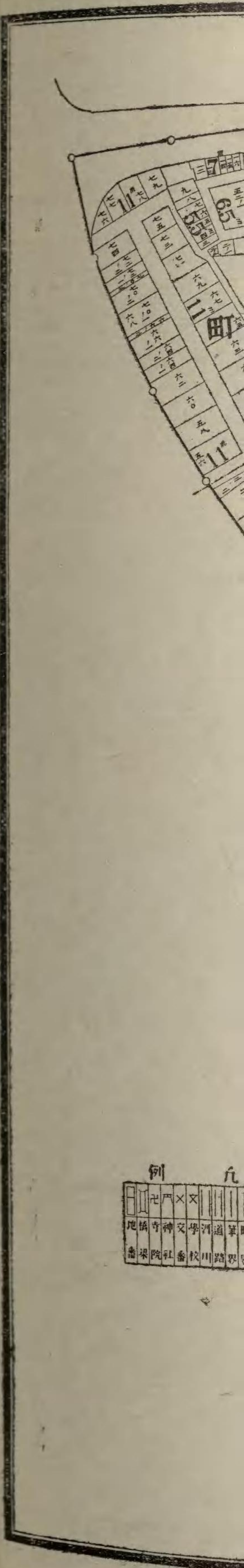


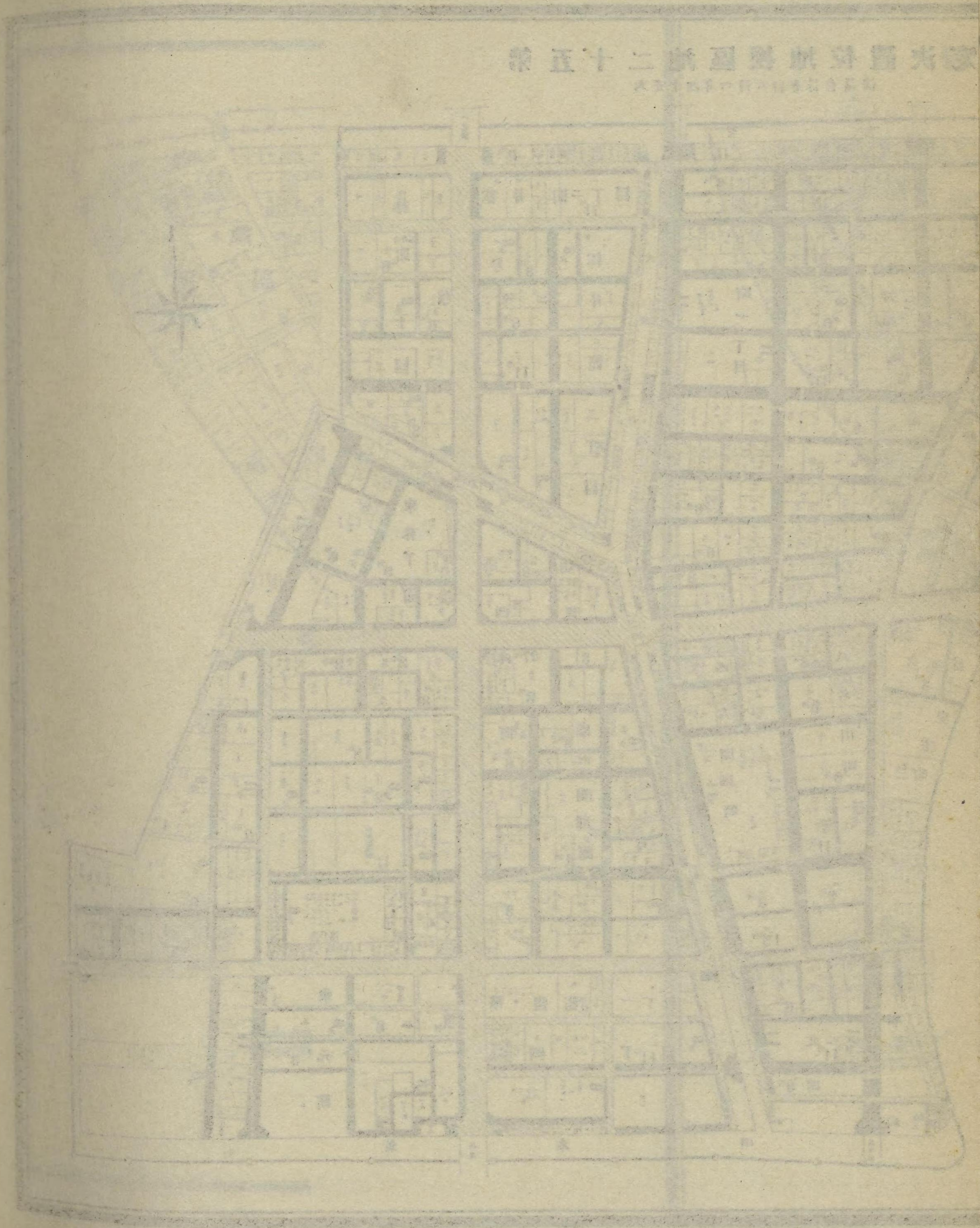
圖說江蘇省城隍廟



圖定決置位地換區地二十五第

決議會日委日六月六年四十大





整理前地区の概況

本地区は本所、深川兩區に跨り、本所區千歳河岸、南整河岸の一部、西六間堀河岸、北五間堀河岸、東六間堀河岸、林町一丁目、松井町一丁目、同二丁目、同三丁目、千歳

整理前地區の概況

本地區は本所、深川兩區に跨り、本所區千歳河岸、南豎河岸の一部、西六間堀河岸、北五間堀河岸、東六間堀河岸、林町一丁目、松井町一丁目、同二丁目、同三丁目、千歳町、深川區東六間堀町、東森下町、西森下町、西六間堀町、八名川町、御船藏前町、安宅町、新安宅町、常盤町一丁目、同二丁目、東元町の一部、芝翫河岸、萬年河岸、東六間堀河岸、西六間堀河岸、南五間堀河岸を包括し、東は一部街路に依り、其の他は五間堀川(通稱徳川堀)を界として、第五十三地區林町二丁目、富川町に面し、西は隅田川に臨み、南は小名木川を隔て、第五十五地區東大工町、仲大工町、西大工町に、北は豎川を隔て、第四十九地區元町及北豎河岸に相對す、地形は東西に短く南北に長き不正形をなし、地勢平坦なり、本地區の總面積は二十一萬千二百三十三坪四合一勺にして、之に所在する建物總棟數は五千八百三十五棟なり、而して本地區は周圍殆ど河川を以て包繞せらるゝのみならず、六間堀川は地區の中部を南北に縦貫し、五間堀川は本川の略中央より東へ分岐し更に南折して地區界を成し、小名木川に連絡せる等舟運の便に富めるを以て、地區内一般工業盛にして各種の工場、商店多し、地區内を縦横に新大橋より伊豫橋に、二之橋より高橋に貫通する電車通は共に江東方面の要路に當り呉服、洋品、家具、飲食等の店舗櫛比し、就中電車交叉點附近の東森下町及西森下町は商業最も繁盛なり、

常盤町一丁目より東元町に至る通稱夜店通、一之橋より安宅町に至る通稱一之橋通、千歳町より林町一丁目に至る通稱山城橋通交通亦頻繁なり、地區の西北部松井町一丁目には砂糖、木工、千歳町には白粉、製氷、安宅町及新安宅町には鐵工、製材等の諸工場あり、西部隅田川沿岸には木材、空樽及空瓶等の間屋、北部堅川沿岸には鐵材、薪炭等の商店、南部小名木川沿岸並中部の六間堀川沿岸には竹材、石材、繩蒔及回漕等の諸商店あり、尙東六間堀町は家具商の多きを以て知らる、林町一丁目には彌勒寺、松井町一丁目には要津寺、千歳町には江島神社、株式會社平尾レイト工場、株式會社龍紋製氷工場、東六間堀町には東京市六間堀尋常小學校、東森下町には第六消防署、東京市深川尋常小學校、東京市深川産院、長慶寺、西森下町には天祖神社、八名川町には東京市八名川尋常小學校、御船藏前町には初音森神社、西光寺、安宅町及新安宅町に跨りて合資會社深川鐵工場、島藤製材工場、新安宅町には兩國橋稅務署、水上警察署出張所、東京市水道局出張所、東京市土木局道路課出張所ありて、其の河岸には隅田川汽船の發著所あり、東元町には日東製氷株式會社分工場、東京通船株式會社及汽船發著所あり、尙林町一丁目彌勒寺内には杉山總檢校の墓、西元町一番地内には芭蕉翁古池の址ありて共に有名な史蹟なり。

甲 整 地

第一章 土地區劃整理委員會

甲 整 地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委 員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第五十二地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各二十人にして、其の選舉を大正十三年六月十六日深川區役所に於て執行したるに、何れも左記の適當選したり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

峰島茂兵衛

島田藤吉

鈴木喜代藏

堀内岩夫

鈴木傳兵衛

日東製氷株式會社

加藤吉次郎

秋葉和助

笹本貞意

秋田直吉

借地權者の部

内山惣吉

川崎貞吉

竹下清助

宮村龜一

菊地惣藏

鈴木彌三郎

宮澤和三郎

宮本米吉

山下三郎

塚本玉吉

二 同上補闕委員

土地所有者の部

小島長兵衛

西川太兵衛

齋藤茂

長慶寺

伊東彌三郎

新崎重太郎

渡邊善十郎

丸山要三

伊藤善藏

笹本保太郎

第五十二地區

甲 整 地

五〇五

借地権者の部

藤田 生一 吉田 榮次郎 横矢 豊馬 田荷福之助 間宮房次郎
山本彌太郎 朝夷 重藏 關 篤司 平井 理 島田慶之

第二 議長並副議長の選舉

大正十三年七月二十日深川尋常小學校に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長島田藤吉、議長及副議長の選舉を執行したるに、左の通當選したり。

議長 島田藤吉 副議長 宮村龜一

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至る迄左の如く異動したり。

一 借地権者選出委員塚本玉吉昭和二年八月十八日死亡したるに因り、同年九月六日同補闕委員藤田生一補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年四月十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し三月三十一日限り東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年三月五日諮問 同日修正決議の上答申

議事要綱

本件審議の結果誤謬訂正出願期日を四月十日に、面積決定期日を四月二十日に修正決議したり。

二 諮問第一號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月五日諮問 委員會十回 協議會一回 特別委員會十回開催
同年八月十三日修正決議の上答申

議事要綱

本件に關しては十五名の特別委員を設け、特別委員會は更に各ブロック毎に擔當委員を定めて審議

右大正十四年三月五日諮問 同日修正決議の上答申
議事要綱

本件審議の結果誤謬訂正出願期日を四月十日に、面積決定期日を四月二十日に修正決議したり。

二 諮問第一號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月五日諮問 委員會十回 協議會一回 特別委員會十回開催
同年八月十三日修正決議の上答申

議事要綱

本件に關しては十五名の特別委員を設け、特別委員會は更に各ブロック毎に擔當委員を定めて審議したるに、左記の諸問題ありて容易に決せざりしも、之が解決を見るに及び、委員會に於て一部修正の上決議したり。

一 深川尋常小學校敷地の換地に關する件

深川區東森下町所在東京市深川尋常小學校敷地に關し深川區會、深川區學務委員會及本地區土地區劃整理委員會は一致して之を東元町十三番小名木川沿ひに換地せむことを希望し、各々當局に陳情するところありしも、小名木川沿岸は改修に伴ひ運河の機能を全からしむる爲住宅、學校等を換地せざる方針なると共に、同地は東南部河川に面し兒童の通學に不便なるのみならず、地盤軟弱にして校舍の建築に適せざるを以て、現存地を相當と認め之が換地位置案を諮問したり、然るに委員會は之に反對し、特別委員の調査に移したるも協定を見るに至らず、其の間當局は本市學務課、臨時建築局其他關係局課と協議を遂げたるに、何れも前述の如く現存地に於て換地するを適當と認めたるを以て、之に基き校舍の設計を作成し委員會に於て詳細之を説示したる結果、漸く當局の意を諒とし、同年六月四日委員會に於て原案の通可決するに至れり。

二 本市水道局及道路課使用地の換地に關する件

右用地(新安宅町十九番、安宅河岸四番ノ一)は新大橋東詰の重要な位置に在りて、之が換地に關し委員會に於て變更の希望あり、即ち西六間堀町及八名川町方面は本市八名川尋常小學校に隣接す

る小公園新設に依り、其の減歩著しきが爲、前記兩用地を移出して其の跡地を宅地の換地に充當し、兩用地は松井町一丁目内務省買收地に之を換地せられ度と謂ふに在り、然るに本案の發表せらるゝや松井町一丁目居住者は住民大會を開きて之に反對し、大正十四年四月六日當局及整理委員會に陳情書を提出したり、従つて委員會に在りては之が採否に關し意見續出し紛糾せるが爲、特別委員會を設けて審議せしめ又は實地調査を爲すと共に、一方地元有志と折衝を重ね、遂に道路に面する部分を東京市に於て一般町民に貸付するを條件として、地元の了解を得たる旨議長より申出ありたるを以て、當局は調査の結果之を容れ、北部及西部の一部を貸付する様盡力することとし、大正十四年六月四日の委員會に於て、漸く原案の通可決するに至れり。

三 諮問第三號 整理前路線價指數並各筆坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十四年三月五日諮問 委員會四回 協議會三回 特別委員會六回開催
同年十月二十一日修正決議の上答申

四 諮問第四號 整理地區に追加編入せられたる土地の整理前面積決定期日に關する件

土地區劃整理施行地區に編入せられたる寺院、佛堂の境内地、墳墓地に關する土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年五月三十一日現在の土地臺帳又は國有財産臺帳面積に依らむとす、但し五月二十五日限東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年五月十六日諮問 同日原案可決の上答申

五 諮問第五號の一 換地面積決定に關する件 (南堅河岸の一部)

大正十四年十月三十日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第五號の二 換地面積決定に關する件 (東元町及常盤町一丁目、同三丁目の各一部)

大正十四年十二月二十六日諮問 同日原案可決の上答申

七 諮問第六號の一 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十二月二十六日諮問 委員會四回 特別委員會一回開催

右大正十四年五月十六日諮問 同日原案可決の上答申

五 諮問第五號の一 換地面積決定に關する件 (南豎河岸の一部)

大正十四年十月三十日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第五號の二 換地面積決定に關する件 (東元町及常盤町一丁目、同三丁目の各一部)

大正十四年十二月二十六日諮問 同日原案可決の上答申

七 諮問第六號の一 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十二月二十六日諮問 委員會四回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては十五名の特別委員を設けて調査せしめたるも、其の決定を見るに至らざりしが、昭和四年六月十四日土地各筆清算案の決定と同時に原案の通可決したり (以下整理後各筆平均坪當指數に關する諮問案に付ても亦之に同じ)

八 諮問第七號の一 換地位置變更に關する件 (東元町及常盤町一丁目、同二丁目の各一部)

大正十四年十二月二十六日諮問 同日原案可決の上答申

九 諮問第五號の三 換地面積決定に關する件 (八名川町、西元町、西六間堀町及松井町一丁目の各一部)

大正十五年三月十五日諮問 委員會三回 特別委員會二回開催 同年五月十二日修正決議の上答申

一〇 諮問第七號の二 換地位置變更に關する件 (八名川町、西元町、西六間堀町及松井町一丁目の各一部)

大正十五年三月十五日諮問 委員會三回 特別委員會二回開催 同年五月十二日修正決議の上答申

一一 諮問第八號の一 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (八名川町、西元町、西六間堀町及松井町一丁目の各一部)

大正十五年三月十五日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

一二 諮問第五號の四 換地面積決定に關する件 (西六間堀町、安宅町、新安宅町及松井町一丁目の各一部)

大正十五年五月十二日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催 同年六月十一日原案可決の上答申

一三 諮問第七號の三 換地位置決定に関する件 (西六間堀町、安宅町、新安宅町及松井町一丁目各一部)

大正十五年五月十二日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一四 諮問第八號の二 整理後各筆坪當平均指數に関する件 (西六間堀町、安宅町、新安宅町及松井町一丁目各一部)

大正十五年五月十二日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

一五 諮問第五號の五 換地面積決定に関する件 (新安宅町、千歳町、松井町二丁目、西元町、安宅町の一部、千歳河岸及萬年河岸)

大正十五年六月十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一六 諮問第七號の四 換地位置變更に関する件 (安宅町、千歳町及西元町各一部)

大正十五年六月十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一七 諮問第八號の三 整理後各筆坪當平均指數に関する件 (新安宅町、千歳町、松井町二丁目、西元町、安宅町各一部、千歳河岸及萬年河岸)

大正十五年六月十一日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

一八 諮問第五號の六 換地面積決定に関する件 (千歳町、松井町一丁目、八名川町、林町一丁目、西六間堀町、西六間堀河岸、南堅河岸各一部及御船藏前町)

大正十五年七月二十九日諮問 委員會二回 特別委員會二回開催

同年九月二十一日修正決議の上答申

一九 諮問第七號の五 換地位置變更に関する件 (西六間堀町、御船藏前町、林町一丁目及西六間堀河岸各一部)

大正十五年七月二十九日諮問 委員會二回 特別委員會二回開催

同年九月二十一日修正決議の上答申

二〇 諮問第八號の四 整理後各筆坪當平均指數に関する件

(千歳町、松井町一丁目、八名川町、西六間堀町、御船藏前町、林町一丁目、八名川町、南堅河岸及西

六間堀河岸各一部)

大正十五年七月二十九日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

一九 諮問第七號の五 換地位置變更に關する件 (西六間堀町、御船藏前町、林町一丁目及西六間堀河岸の各一部)
大正十五年七月二十九日諮問 委員會二回 特別委員會二回開催
同年九月二十一日修正決議の上答申

二〇 諮問第八號の四 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (千歲町、松井町一丁目、西六間堀町、御船藏前町、林町一丁目、八名川町、南堅河岸及西六間堀河岸の各一部)
大正十五年七月二十九日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催
昭和四年六月十四日原案可決の上答申

二一 諮問第六號の二 換地面積決定に關する件 (林町一丁目、東森下町の各一部及松井町三丁目)
大正十五年九月二十一日諮問 同日原案可決の上答申

二二 諮問第七號の六 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町一丁目、東森下町の各一部及松井町三丁目)
大正十五年九月二十一日諮問 委員會五回 協議會一回 特別委員會一回開催
昭和四年六月十四日原案可決の上答申

二三 諮問第八號の五 換地位置變更に關する件 (林町一丁目、東森下町及松井町三丁目の各一部)
大正十五年九月二十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二四 諮問第六號の三 換地面積決定に關する件 (東森下町の各一部)
大正十五年十一月五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二五 諮問第七號の七 整理後各筆坪當指數に關する件 (東森下町の各一部)
大正十五年十一月五日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催
昭和四年六月十四日原案可決の上答申

二六 諮問第八號の六 換地位置變更に關する件 (東森下町の各一部)
大正十五年十一月五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申
第五十二地區 甲 整地

二七 諮問第六號の四 換地面積決定に關する件

(東森下町、西森下町、東元町、南五) 間堀河岸及東六間堀河岸の各一部

大正十五年十一月二十七日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催

同年十二月二十一日修正決議の上答申

二八 諮問第七號の八 整理後各筆坪當平均指數に關する件

(東森下町、西森下町、東元町、南五) 間堀河岸、西六間堀河岸の各一部

大正十五年十一月二十七日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

二九 諮問第八號の七 換地位置變更に關する件

(東森下町、西森下町、東元町、西元町及南五間堀河岸の各一部)

大正十五年十一月二十七日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催

同年十二月二十一日修正決議の上答申

三〇 諮問第九號 換地面積一部變更に關する件

(西元町の一部)

大正十五年十一月二十七日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催

昭和二年一月十一日原案可決の上答申

三一 諮問第六號の五 換地面積決定に關する件

(東森下町、西森下町及南五間堀河岸の各一部)

大正十五年十二月二十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日修正決議の上答申

三二 諮問第七號の九 整理後各筆坪當平均指數に關する件

(東森下町、西森下町、千歲) 町及南五間堀河岸の各一部

大正十五年十二月二十一日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催

昭和四年六月十四日原案可決の上答申

三三 諮問第八號の八 換地位置變更に關する件

(東森下町の一部)

大正十五年十二月二十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日修正決議の上答申

三四 諮問第六號の六 換地面積決定に關する件

(西森下町、東六間堀町及東六間堀河岸の各一部)

大正十五年十二月二十五日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催

昭和二年一月十一日原案可決の上答申

三五 諮問第七號の十 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (西森下町、東六間堀町及)

大正十五年十二月二十一日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催
昭和四年六月十四日原案可決の上答申
三三 諮問第八號の八 換地位置變更に関する件 (東森下町の一部)

大正十五年十二月二十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日修正決議の上答申
三四 諮問第六號の六 換地面積決定に関する件 (西森下町、東六間堀町及東六間堀河岸の各一部)
大正十五年十二月二十五日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催
昭和二年一月十一日原案可決の上答申

三五 諮問第七號の十 整理後各筆坪當平均指數に関する件 (西森下町、東六間堀町及東六間堀河岸の各一部)
大正十五年十二月二十五日諮問 委員會五回 特別委員會一回開催
昭和四年六月十四日原案可決の上答申

三六 諮問第八號の九 換地位置變更に関する件 (西森下町、東六間堀町及東六間堀河岸の各一部)
大正十五年十二月二十五日諮問 委員會二回 特別委員會一回開催
昭和二年一月十一日原案可決の上答申

三七 諮問第十號 整理前路線價指數竝各筆坪當平均指數一部變更に関する件 (各町の一部)
昭和四年四月二十三日諮問 委員會四回 協議會三回開催 同年六月十四日原案可決の上答申
三八 諮問第十一號 換地位置竝面積一部變更に関する件 (各町の一部)
昭和四年四月二十三日諮問 委員會四回 協議會三回開催 同年六月十四日原案可決の上答申

三九 諮問第十二號 土地各筆清算に関する件
昭和四年四月二十三日答申期限を同年五月二十日迄として諮問 委員會四回 協議會三回開催
同年六月十四日原案可決の上答申

議事要綱

本件に關しては整理前路線價指數の引下、又は個々路線價に對する修正等に付、意見續出して容易

に纏らず、指定の答申期日を六月十日に延期して審議を重ねたるも、尙協定を見るに至らざりしを以て、更に延期を爲して審議の結果、遂に六月十四日修正意見を採決せしが少數を以て敗れ、原案の通可決するに至れり。

四〇 諮問第十三號 換地處分に關する件

昭和四年六月三日答申期限を同月二十日迄として諮問 委員會三回 協議會二回開催
同年六月十四日原案可決の上答申

四一 諮問第十四號 補償金配當に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は、補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各権利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當の額は整理前指數相當額と爲さむとす。

記

所	在	地番	所	在	地番	所	在	地番
本所區松井町一丁目	同	一三ノ四	深川區西六間堀町	同	四ノ二	深川區西六間堀町	同	七ノ二
同	同	二六	同	同	四ノ二	同	同	九ノ二
同	同	三ノ五	同	同	四ノ二	同	同	一〇ノ二
同	同	三ノ六	同	同	六ノ二	東元町	同	一五ノ二
								深川區東森下町
								西森下町
								一〇八ノ二
								三

右昭和四年六月三日諮問 委員會三回 協議會二回開催 同年六月十四日原案可決の上答申

四二 諮問第十五號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地又は

土地に關する権利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和四年六月三日諮問 委員會三回 協議會二回開催 同月十四日原案可決の上答申

四三 諮問第十六號 換地處分變更に關する件

(松井町一丁目及安宅町の各一部)

昭和四年十二月十六日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は換地處分告示の後、借地人の名義竝整理前借地位置に誤謬あるを發見し、其の坪當指數に異

右昭和四年六月三日諮問 委員會三回 協議會二回開催 同年六月十四日原案可決の上答申

四二 諮問第十五號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地又は土地に關する權利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和四年六月三日諮問 委員會三回 協議會二回開催 同月十四日原案可決の上答申

四三 諮問第十六號 換地處分變更に關する件 (松井町一丁目及安宅町の各一部)

昭和四年十二月十六日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は換地處分告示の後、借地人の名義竝整理前借地位置に誤謬あるを發見し、其の坪當指數に異動を生ずるの關係上變更を要したるものにして、提案當日原案の通可決したり。

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は二十一萬千二百三十三坪四合一勺にして、内宅地面積十五萬七千七百三十三坪八合一勺、公共用地面積五萬三千五百二十九坪五合九勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割四分七厘、公共用地二割五分三厘なり、宅地内借地面積は九萬五千七百七十五坪四合一勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割二分七厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

一 主要街路

地區の稍東部を南北に二之橋より高橋に通ずる電車通は幅員約十二間、中央部を東西に新大橋より伊豫橋に通ずる電車通は幅員約十一間なり。

二 其の他の街路

一之橋より地區の西部を南下して萬年橋に至る通稱一之橋通は幅員約四間半、西元町より地區の南部を東走して東元橋に至る通稱夜店通は幅員約五間半、北部の堅川に沿ふ南堅河岸通は幅員約四間半

其の南側に並行する通稱山城橋通の内六間堀川より以東は幅員約六間、以西は約三間半、六間堀川及五間堀川の兩沿岸街路は何れも幅員約三間半なり、西元町、常盤町一丁目、同二丁目及東元町内の街路は稍整然たるも、其の他の街路は狹隘にして錯綜し系統不規則なり。

三 河 川

小名木川は地區の南側に在り幅員約二十間、深度五尺三寸にして舟楫の便多く、河心を地區界とす、堅川は地區の北側に在り幅員約二十間、深度三尺六寸にして水運の便多く、河心を地區界とす、六間堀川は地區の中部を南北に小名木川と堅川とを連絡し、幅員約六間、深度約一尺五寸にして水運の便あり、五間堀川(通稱徳川堀)は六間堀川の稍中央より分岐して東北に斜走し、更に南折して地區界をなし小名木川に合す、幅員五間乃至六間、深度一尺二寸にして稍舟運の便あり。

第三章 計畫の概要

第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路、運河及小公園左の如し。

第一 幹線街路

第十號線は二之橋より南下し、彌勒寺橋及市電森下町停留場を経て高橋に至る幅員二十五米の街路にして、通稱二之橋通の兩側に擴張せり、第二十九號線は西端新大橋より地區の中部を横斷し、幹線第十號を横切り伊豫橋に至る幅員二十七米の街路にして、在來電車通の兩側に擴張せり。

第二 補助線街路

第四十號線は一之橋より地區の西部を隅田川に略並行して南下し、幹線第二十九號を横切り萬年橋に至る幅員十五米の街路にして、一之橋より補助線第四十四號分岐點迄は主として在來街路の東側に擴張し、其の以南を新設せり、第四十四號線は地區の西南部西元町に於て補助線第四十號より分岐東し、猿子橋を渡り幹線第十號を経て東端東元橋に至る幅員十六米の街路にして、幹線第十號迄は在來夜店通の兩側に、其の以東東元橋に至る間は北側を擴張せり、第百七號線は堅川に新設せり、千歳橋より六間堀川

して、通稱二之橋通の兩側に擴張せり、第二十九號線は西端新大橋より地區の中部を横斷し、幹線第十號を横切り伊豫橋に至る幅員二十七米の街路にして、在來電車通の兩側に擴張せり。

第二 補助線街路

第四十號線は一之橋より地區の西部を隅田川に略並行して南下し、幹線第二十九號を横切り萬年橋に至る幅員十五米の街路にして、一之橋より補助線第四十四號分岐點迄は主として在來街路の東側に擴張し、其の以南を新設せり、第四十四號線は地區の西南部西元町に於て補助線第四十號より分岐東し、猿子橋を渡り幹線第十號を経て東端東元橋に至る幅員十六米の街路にして、幹線第十號迄は在來夜店通の兩側に、其の以東東元橋に至る間は北側に擴張せり、第七號線は堅川に新設せる千歳橋より六間堀川に並行して南下し、北ノ橋西詰に於て幹線第二十九號に合する幅員十一米街路にして、在來街路の西側に擴張せり、第八號線は伊豫橋西詰に於て幹線第二十九號より分岐し、南走して補助線第四十四號を横切り新設西深川橋に至る幅員十一米の街路にして、補助線第四十四號迄は在來街路の東側に擴張し以南を新設せり、第十五號線は隅田川沿ひ安宅町より發し、補助線第四十號と交叉東折して新設汐時橋を渡り、幹線第十號と交叉し長谷川橋北詰に至る幅員十一米の街路にして、大部分新設なり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、四米、五米、六米、八米及十一米にして土地の狀況に應じ且幹線、補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴張又は改修を爲せり。

第四 運 河

小名木川は國施行の改修運河にして幅員を五十五米に擴張し、河底を浚渫して深度を二米一とせり、其の幅員擴張の爲め切取りたる面積千六百十二坪二合にして、内宅地四百八十二坪五合四勺、公共用地千百二十九坪六合六勺なり。

第五 小公園

本地區には公園二箇所を新設せり、即ち八名川公園は八名川町及西六間堀町に跨り、北は東京市八名川尋常小學校に隣り、東は十一米の區劃整理街路に面し、西及南は大部分民地に接し十一米街路に通路

を有す、其の面積八百九十九坪二合五勺なり、森下公園は東森下町内に在り、南は十一米區劃整理街路を隔て、東京市深川尋常小學校に相對し、東は民地に、西及北は共に八米の區劃整理街路に接す、其の面積九百坪二合六勺なり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
幹線	計	一七・〇〇	一、六七四・三六	三、四七三・二四	
	一〇	一五・〇〇 ^米	八九五・三四 ^米	六、九五二・二三 ^坪	
	二元	一七・〇〇	七九〇・〇二	六、五二二・一一	
	四〇	一五・〇〇	九四九・二七	四、三五七・三〇	
	四	一五・〇〇	七〇九・五四	三、二六〇・五六	
	一〇七	一〇・〇〇	五八・三三	一、七四・八七	
補助線	計	一一・〇〇	三、一〇三・五五	三、七七八・〇四	
	二五	一一・〇〇	六〇五・九八	二、〇〇六・四四	
	一〇八	一一・〇〇	四六・四〇	一、四八・八七	
	一〇七	一一・〇〇	五八・三三	一、七四・八七	
	四	一五・〇〇	七〇九・五四	三、二六〇・五六	
	四〇	一五・〇〇	九四九・二七	四、三五七・三〇	
區劃整理線	計	一・〇〇	三、六九四・〇七	二、九五〇・四〇	一部地區界
	八・〇〇	四、八四四・八九	二、七四・六二	二、七四・六二	
	六・〇〇	三、六九三・二七	六、七八・五三	六、七八・五三	
	五・〇〇	五五・六七	八四・二三	八四・二三	
	四・〇〇	四四・六〇	三四三・二九	三、二五一・五四	
	三・〇〇	一六、一五〇・七九	三、四三二・元	三、四三二・元	

合	計	二二、〇四・七〇	六〇、五八・七一
---	---	----------	----------

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月五日土地區劃整理委員會に附議し、同年八月十三日修正決

區劃整理線	計	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
		四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
		三、四二〇・六〇	三、四二〇・六〇	三、四二〇・六〇	三、四二〇・六〇
		一六、一五〇・九	一六、一五〇・九	一六、一五〇・九	一六、一五〇・九
		八四・三	八四・三	八四・三	八四・三
		五〇・六	五〇・六	五〇・六	五〇・六
		五八・一四	五八・一四	五八・一四	五八・一四
		三、一五一・五四	三、一五一・五四	三、一五一・五四	三、一五一・五四
		四〇、三二七・四三	四〇、三二七・四三	四〇、三二七・四三	四〇、三二七・四三

合	計	二一、〇四・七〇	六〇、五八・七一
---	---	----------	----------

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月五日土地區劃整理委員會に附議し、同年八月十三日修正決議せしも、其の後十二回に亘り一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し、昭和四年四月二十三日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十四年十月三十日より同十五年十二月二十五日迄十一回に分ちて提案し、其の都度各決議したるも、大正十五年十一月二十七日及昭和四年四月二十三日の二回に亘り一部面積變更案を提出し、其の都度決議し、昭和四年六月十四日議了せり。

換地設計に因る宅地面積十三萬二千四百八十一坪六勺、公共用地面積七萬八千七百五十二坪三合五勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割二分七厘、公共用地三割七分三厘なり、宅地の内借地面積は八萬千六百五十一坪六合五勺にして、其の所有地面積に對する割合は六割一分六厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬三千六百二十九坪六合一勺、公共用地が宅地となりたる面積八千四百六坪八合五勺、其の差引潰地面積二萬五千二百二十二坪七合六勺、減歩率一割六分なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。
整理前後土地面積調

區分	總面積		宅地面積 對總面積の割合	公共用地面積 對總面積の割合	潰地面積	潰地整理面積 對宅地整理面積の割合	潰地前面積より 整理したる面積を 除したる面積を 補償
	内借地面積	宅地面積					

第五十二地區 甲 整地

第五十二地區 甲 整地

整理前		整理後	
一五七、七〇三・八一		三三二、三三三・四	
五五、七七五・四	一三三、四八一・〇六	八、六五一・六五	一三三、四八一・〇六
〇・七四七	〇・六六七	〇・六六六	〇・六六七
五、五九・五九	七、七五二・三五	〇・七三三	〇・七三三
〇・二五三	二五、三三・七六	〇・二五九・七五	〇・二五九・七五
九、四五・三八	九、四五・三八	九、四五・三八	九、四五・三八

備考

面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理前	整理後	區分	民有地	國有地	公有地	合計
一三七、五五・三	一八、五五・一六	民有地	一三七、五五・三	六、七六・三	一三、四〇・三六	一五七、七〇三・八一
一、八七四・七	一、八七四・七	國有地	〇	一、八七四・七	〇	一、八七四・七
〇	〇	公有地	〇	〇	〇	〇
〇	〇	合計	一三七、五五・三	一、八七四・七	一三、四〇・三六	一五七、七〇三・八一

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
二七、五五・六一	四、一三三・〇二	五、九一・四七	三三、五九七・一〇	一四、〇〇八・三元	〇	四四〇・九七	二八五・七四	一、五四・三元	三三、五九七・一〇

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一三、四三・二四	二、七六・〇四	三、七・四三	一六、八六・七一	一、七九九・六	〇	四四〇・九七	二八五・七四	一、五四・三元	一六、八六・七一

國	有	公	民	有	小	計	河川運河	公	園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
二七、五二五・六一	四、一三三・〇二	五、九一・四七	三、七三、六〇	一〇	一四、〇〇八・三元	坪	坪	坪	坪	四〇・九七	一八五・七四	一、五四・三九	五、五九・五九

整理後公共用地面積内譯

街	幹線	補助線	區劃整理線	小計	在來	新設	在來	新設	堤塘	溝渠	合計
二、四七三・二四	二、七八・〇四	三、七、四三、〇六	五、八、七二、五、六〇	一、七九九・六二	四八二・九九	二、〇四五	一、六〇・五二	六、三三・四三	坪	坪	坪

宅地が公共用地となりたる面積

街	幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公	園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
三、三九九・六二	六、二八五・七二	二、五四・九七	三、三八・三〇	四八二・五四	一、七九九・六二	坪	坪	坪	坪	坪	三、五〇・四五

公共用地が宅地となりたる面積

街	國有	公有	民有	小計	河川運河	公	園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
四、八七八・九四	坪	二、八八五・二七	七、七〇四・一一	坪	坪	坪	一、三三・三六	二、四・〇八	四八・二六	八、四〇六・八五	坪

備考 各公共用地の整理前面積に宅地が公共用地となりたる面積を加へ、公共用地が宅地となりたる面積を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

本地區の平均減歩率は一割六分なるもブロックに依り其の割合一様ならず、就中西六間堀町、八名川町内は小公園の新設、街路の擴張並新設等の爲減歩率二割六厘となり換地設計上支障を生じたるを以て、

潰地充當用として宅地五千二百七十八坪五合五勺を買収し減歩の緩和を計りたる爲、實際潰地面積は一萬九千九百四十四坪二合一勺に減少し、其の減歩率一割三分一厘に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩區々に亘りたるを以て、ブロック間に宅地三千二百八十五坪の移出入を行ひたり、殊に西六間堀町、八名川町内ブロックの減歩を緩和する爲、新安宅町所在本市水道局及道路局用地を松井町ブロック内に飛換地し、其の跡地へ宅地九筆面積七百八十七坪を移出換地し以て其の設計を了せり。

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年三月五日土地區劃整理委員會に附議し、同年十月二十一日修正決議したるも、昭和四年四月二十三日土地各筆清算に關する件を諮問するに際し、路線價指數並各筆平均坪當指數一部變更案を提出し、同年六月十四日原案の通可決せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中乙及丙の兩率を適用したり、其の路線價指數は土地の狀況に依り三百七十五個乃至千個と評定せり、即ち高橋、二ノ橋間の電車通中東森下町十五番ノ二、同十五番ノ三地先を最高千個、東森下町百三番地先より百五番地先に至る路線及同町六十一番ノ一、同百六番の各地内私道を最低三百七十五個としたり、而して路線價指數に基き算出し之地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千二百一十一個、西森下町三十七番ノ一にして、最低は二百十個、松井町一丁目三十四番なり。

宅地全筆の總指數は六千九百五十一萬八千四百七十三個にして、之を宅地總面積の十五萬七千七百三十三坪八合二勺にて除したる平均坪當指數は四百四十一個なり。

借地權利價割合は國有寺地及市有墓地を九割、市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割五分と定めたり。

一番ノ一、同百六番の各地内私道を最低三百七十五個としたり、而して路線價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千二百一十一個、西森下町三十七番ノ一にして、最低は二百十個、松井町一丁目三十四番なり。

宅地全筆の總指數は六千九百五十一萬八千四百七十三個にして、之を宅地總面積の十五萬七千七百三坪八合二勺にて除したる平均坪當指數は四百四十一個なり。

借地權利價割合は國有寺地及市有墓地を九割、市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割五分と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十四年十二月二十六日土地區劃整理委員會に附議し、昭和四年六月十四日原案の通可決し、整理後土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年三月十五日より同年十二月二十五日迄十回に分ち委員會に附議し、何れも決定するに至らざりしが、昭和四年六月十四日土地各筆清算案決定に際し、同時に原案の通可決したり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく乙及丙の兩率を適用したり、其の路線價指數は土地整理の狀況に依り三百八十五個乃至千百個と評定せり、即ち幹線第十號中整理前千個の個所を最高千百個、補助線第四十四號に並行して西森下町より東六間堀町に通ずる三米區劃整理路線を最低三百七十五個としたり、而して路線價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千四百四十五個、西森下町二十四番にして最低は二百五十三個、松井町一丁目四十六番なり。

換地全筆の總指數は六千四百九十九萬六千六百三十三個にして、之を換地總面積の十三萬二千四百八十一坪六勺にて除したる平均坪當指數は四百九十一個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく國有寺地及市有墓地を九割、市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割五分と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示

すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當及宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高 1,000個	330.00円	最高 1,100個	333.00円
	最低 375	123.75	最低 375	123.75
各筆坪當	最高 1,312	399.63	最高 1,445	476.85
	最低 300	69.30	最低 253	83.49
宅地總平均坪當	441	145.53	491	162.03

備考 指數單價は三十三錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	外 50,346,435個	17,940,335.55円	51,267,700個	17,135,471.00円
	1,866,399	63,511.67		
借地權	13,185,639	4,364,160.87	13,767,933	4,133,478.9
合計	外 63,532,074	22,304,496.42	65,035,633	21,268,950.9
	1,866,399	63,511.67		

備考

- 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
- 二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは六九、五一八、四七三個なり。

借地権	合 計	外	借地権	合 計	外
一三、八五、六三九	六七、六三、〇七四	一八、八六、三三九	四、三六四、三〇・八七	三、三八、五八四・四三	六三、五一・六七
一三、七六、九三三	六四、九六、六三三				
四、二三、四七・八九	二、四八、八八・八九				

備考

- 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
 二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは六九、五一八、四七三個なり。

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年四月二十三日土地區劃整理委員會に諮問し、同年六月十四日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和四年六月三日同委員會に諮問し、同年六月十四日原案の通可決したるを以て、同月十五日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月十八日認可、同日内務省告示第二百一號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第二百七十八號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は六月十八日より同月二十四日迄に東京市復興事業局第四出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、然るに其の後換地處分に關する一部變更の必要の爲、昭和四年十二月十六日右變更に關する件を委員會に諮問し、同日原案の通可決したるを以て即日之が認可申請を爲し、同月二十八日認可、同日内務省告示第三百八十六號を以て換地處分一部變更認可の告示あり、依て即日東京市告示第五百四十七號を以て右換地處分一部變更の件認可ありたる旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前八百四十三筆、整理後八百十九筆、借地整理前二千六百三十一件、整理後二千五百十五件なり、土地権利者は所有權者整理前後共三百七十四人、借地權者整理前後共千八百六十六人なり。

備考
 一 換地説明書別欄、甲は所有権と所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみ
 の清算を掲ぐ。
 二 従前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。
 三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	従前の土地		換地	
	區町丁目	地番	區町丁目	地番
東京市	深川區 新安宅町	二ノ二 共同物揚場	深川區 新安宅町	二 共同物揚場
	同	二七 同	同	一〇ノ一 同
同	同	二〇ノ二 同	同	一五・七 同
同	同	〇〇 塵芥取扱場	一 塵芥取扱場	元・七 敷
同	同	四 同	同	元・七 敷
同	同	三 河岸地	四ノ二 河岸地	二六・五 共同物揚場
同	同	三 河岸地	同	三三・〇 同
合計	松井町三丁目	三九・六	松井町三丁目	三三・〇

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	権利別	面積	指數	價格	摘	要
加藤喜三郎	深川區 御船藏前町	四四(1)	宅地	賃借權	七・〇七 ^坪	七五 ^個	二四三・五 ^円	協定に依る	

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

東京市所有地道路八十三筆四千三十六坪三勺。

第五十二地區 甲 整地

潰地充當用買收地東京市一筆二百六十七坪、内務省十三筆五千十一坪五合五勺、計五千二百七十八坪五合五勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權一件、地上權假登記八件、抵當權二百五十五件、抵當權假登記四件、賃借權一件、賃借權假登記十七件あり。
- 二 處分の制限の指定を爲したるもの假處分一件、所有權假登記六件、競賣申立一件、豫告登記五件あり。
- 三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千五百九十二件あり。

備考 右の外係争中の賃借權九十二件、借地法第六條該當地六件、同法第九條該當地十九件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年六月十八日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は五十五萬六千八十七圓二十九錢にして人員九百六十四人なり、又土地補償金は同月二十五日補償審査會に於て七十一萬四千四百六十一圓二十二錢人員二千二百六人と決定せられ同月二十八日其の通知を受けしが、更に同年七月二十三日補償審査會に於て補償金額七十一萬三千八百八十一圓十錢人員二千二百五人と變更せる旨同月二十六日通知を受けたり、依て同年八月八日補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したりしが、其の後川口某外三人に對する換地處分變更の件同年十二月二十八日内務大臣の認可あり、又同五年二月十三日補償審査會に於て右川口某外三人に對する補償金の變更を爲したる旨、同月十七日通知を受けたるに依り同日充當處分の變更を爲したり、充當計算左表の如し。

摘要	徴收清算金		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收金		充當後交付金	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
當初充當面	五五、〇八七・三九	九六四	七〇、三六一・一〇	二、一〇五・二六	九六〇・二八九・二七・六二	五九二・四四三・四二・四三	一、六三六			
變更充當面	五五、〇一七・九	九六三	七〇、三六一・一〇	二、一〇五・二六	九六〇・二八九・二七・六二	五九二・四四三・四二・四三	一、六三六			

其の後川口某外三人に對する換地處分變更の件同年十二月二十八日内務大臣の認可あり、又同五年二月十三日補償審査會に於て右川口某外三人に對する補償金の變更を爲したる旨、同月十七日通知を受けたるに依り同日充當處分の變更を爲したり、充當計算左表の如し。

摘 要	徵收清算金		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收		充當後交付	
	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員
當初充當面	五五、〇八七・元	九六四	七〇、三二一・二〇	二、〇五二	二六六、九六九・六七	九六〇、二八九、二七・六二	五九二、四四三、四二・四三	一、六三六		
變更充當面	五五、〇二七・九	九六三	七〇、三二一・二〇	二、〇五二	二六六、九八・九五	九六〇、二八九、二〇・〇四	五九二、四四三、四二・四三	一、六三六		
差引増△減	△ 六九・三〇	△ 一	—	—	△ 六〇・七二	△ 一	△ 八・五八	△ 一	六〇・七二	一

第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、昭和四年八月八日充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は五十五萬六千十七圓九十九錢なりしが、内二十六萬六千九百八圓九十五錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引二十八萬九千九百四圓にして人員五百九十一人なり。

右徵收人員五百九十一人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの二百八十一人なるも、内官公署分四件を除き差引二百七十七人に對し分納申請期限を昭和四年八月二十五日とし、同月八日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの百四十四人にして、資格者總數に對し約五割二分の申請者ありたるも、尙同年九月三日未提出者百三十三人に對し同月十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請したるもの二十五人ありて結局申請者合計百六十九人となり、資格者總數に對し七割五分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和四年十月五日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區の清算金徴收事務は深川區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年十月より之が徴收を開始せり。

第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は五十五萬六千十七圓九十九錢にして昭和四年八月十五日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額五十五萬千六百八十二圓十二錢なり。

第六章 土地補償金

第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割五分九厘九三七なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路及運河敷充當用として國に於て買收したる土地及補助線街路敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左記第一表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年六月十八日補償審査會に提出し、同月二十五日原案の通決定せられ同月二十八日其の旨通知を受けしが、其の後補償金に誤謬ありしことを發見せしに依り之が變更案を左記第二表の計算に基き作成の上、同年七月二十二日補償審査會に提出し、同月二十三日原案の通決定せられ同月二

十六日其の旨通知を受けしが、尙又補償金に誤謬ありしことを發見せし爲之が變更案を作成の上同五年二月三日補償審査會に提出し、同月十三日原案の通決定せられ同月十七日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は七十一萬三千八百一十圓十錢にして人員二千二百五人なり。

案を作成の上、昭和四年六月十八日補償審査會に提出し、同月二十五日原案の通決定せられ同月二十八日其の旨通知を受けしが、其の後補償金に誤謬ありしことを發見せしに依り之が變更案を左記第二表の計算に基き作成の上、同年七月二十二日補償審査會に提出し、同月二十三日原案の通決定せられ同月二

十六日其の旨通知を受けしが、尙又補償金に誤謬ありしことを發見せし爲之が變更案を作成の上同五年二月三日補償審査會に提出し、同月十三日原案の通決定せられ同月十七日其の旨通知を受けたり。而して要交付補償金總額は七十一萬三千八百一十一圓十錢にして人員二千二百五人なり。

補償金計算調書(第一表)

(其の一)

摘	要	員	數
整理前宅地總面積	面積		一五七、七〇三坪八二
整理後宅地總面積	面積		一三二、四八一坪〇六
潰地總面積	面積		二五、二二二坪七六
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	面積		〇・一五九九三七
整理前宅地の一割に相當する面積	面積		一五、七七〇坪三八
補償總面積	面積		九、四五二坪三八
整理前宅地總面積	面積		六九、五一八、四七三個
同平均坪單當指	指		四四一個
指前宅地坪單當指	指		〇圓三三
整理前宅地坪單當指	指		一四五圓五三
補償總額	額		四、一六八、四九九個
補償總額	額		一、三七五、六〇四圓六七

(其の二)

摘	要	員	數
特別都市計畫法施行令	面積		五、二七八坪五五

第五十二地區 甲 整理地

五三一

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、市負擔額は七十五萬百十圓七

十九錢となりしが、運河敷充當用として國に於て買收したる土地の評定價格が國負擔額に對し三萬九千七百二十九圓六十九錢超過となりたるを以て、之を市負擔額に充當し立替を受けたる結果、差引七十一萬三百八十一圓十錢(人員二千二百五人)を市に於て負擔することゝなりたり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

補償	面積		國負擔	面積		市負擔	面積		備考
	金額	指數		金額	指數		金額	指數	
九、四五二・三八 ^坪	一、三三五、六〇四・六七 ^円	四、一六・四九 ^個	三、八八二・一五 ^坪	一、七二二、〇八 ^個	五、五七〇・三三 ^坪	八〇、六三五・四三 ^円	二、四五六、四七 ^個	一五七、七〇三・八一 ^坪	四一五、七三二、一九 ^個
								總指數	有地指數
								當指數	

(其の二)

△印は減を示す

負擔區分	種別	補償		國負擔		市負擔		備考	
		面積	金額	面積	金額	面積	金額	面積	金額
幹線	三、三九九・六一 ^坪	一、四九九、三六 ^個	四九四、七五二・四 ^円	四、一六・四九 ^個	三、八八二・一五 ^坪	一、七二二、〇八 ^個	五、五七〇・三三 ^坪	八〇、六三五・四三 ^円	二、四五六、四七 ^個

第五十二地區 甲 整地

五三三

總計	市負擔				國負擔	
	計	補助線	小公園	計	運河	
九,四三二・三八	五,五〇〇・三三	三,七〇〇・六二	一,七九六・六二	三,八八二・一五	四八二・五四	
一,一七三,五〇六・三七	八〇,六三三・四三	五八,七三六・一九	二六三,八九七・二四	五六四,九六九・三四	七〇,三三〇・〇〇	
四,一四一・七二	二,四六六・四七	一,六六一・八四三	七九三,六二六	一,七三三,〇二八	二二一,八〇〇	
二,九四〇・〇〇	二,五〇〇・〇九	一,七〇八・三三	八,一三三・六六	二七,五四一・八一	二,一八〇・三二	
一,八八六,三九九	三,三三四・五五	一,〇七一・三五	二四,六四二	五七,一五七・二二	六,六〇七	
六三三,五二一・六七	一〇七,一三五	三五,三五四・五五	—	一,七九二,二四四	三六,五六六	
六六五,三三三・七七	六,〇五四・四四	五,三九二・七九	八,三三一・八六	一〇四,六六八・九三	一〇七,七三三・三六	
二,一四一,三三〇	一八三,四〇八	一五八,七六六	二四,六四二	一,八三三,四三三	三三三,一九三	
七〇,一八一・〇一	七,〇一〇・一〇	四九六,三四五・四一	一,五〇四,〇七九	△	△	
	二,二七三,〇三〇		二五三,七五・三八	△	△	
	七六八,九六六		三九,七九・六九			
	三九,七九・六九					
	二二〇,三九三					

第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は七十一萬三百八十一圓十錢なりしが、内二十六萬六千九百八圓九十五錢を徴收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は四十四萬三千四百七十二圓十五錢(人員千六百三十九人)なり。

第四 補償金の交付

總計	九、四三三・三八
一、三三三・四〇七・六七	一、三三三・四〇七・六七
四、三七一・〇〇	四、三七一・〇〇
六、三三三・二六七	六、三三三・二六七
三、三三三・三三七	三、三三三・三三七
七、〇〇〇・一〇	七、〇〇〇・一〇

第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は七十一萬三千八百八十一圓十錢なりしが、内二十六萬六千九百八圓九十五錢を徵收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は四十四萬三千四百七十二圓十五錢(人員千六百三十九人)なり。

第四 補償金の交付

本地區に於ける補償金總額七十一萬三千八百八十一圓十錢中、徵收清算金に充當したる金額二十六萬六千九百八圓九十五錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年五月七日支出し、直接交付額四十四萬三千四百七十二圓十五錢は昭和四年八月十五日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十四萬三千四百八十二圓三十八錢にして、交付済額合計七十一萬三千九百九十一圓三十三錢なり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更百二十八件、土地名義人表示更正及變更十八件、土地分合筆百二十四件、家督相續一件、所有權保存一件なり。

第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前七百十六筆、整理後七百二十九筆にして、建物囑託件數は要登記のもの千三百五十三件、現存を認め難きもの九百四十二件なり、囑託書を東京區裁判所林町出張所に提出したるは昭

第五十二地區 甲 整地

和四年九月五日にして、登記の完了は同年十一月二十二日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日、即ち昭和四年六月十八日より約五箇月に亘れり。

第二節 地價配賦

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- 一 土地區劃整理施行申告 大正十五年八月三日
- 一 工事著手届 同日
- 一 工事完了届 昭和四年六月二十一日

第二 地價配賦

地價配賦案は昭和四年八月七日之が作成を了し、同年八月八日兩國橋稅務署長に提出し、同年十月三日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は百四十二萬千四百一十一圓三十四錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は二十四萬九千八百八十圓三十錢なり、之を前述の地價總額百四十二萬千四百一十一圓三十四錢より控除したる百十七萬二千二百三十一圓四錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は二十圓六錢二八四〇八なり。

一 整理前後有租地面積

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
一四二、六七・〇六 ^坪	一七、六六・九六 ^坪	一二五、〇一三・〇八 ^坪

租地前面積	同上總地價	坪當平均地價
一四二、六六・〇六 ^坪	一、四二二、四二・三四 ^円	九・九六二 ^円

三 控除せらるべき地價

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

るべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は二十圓六錢二八四〇八なり。
地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減歩面積
一四一、六六・〇六 ^坪	一七、六六・九八 ^坪	一五、〇三・〇八 ^坪

二 整理前有租地坪當平均地價

租整地面積有	同上總地價	坪當平均地價
一四一、六六・〇六 ^坪	一、四二、四二・三四 ^円	九・九六二 ^円

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	坪當平均地價	控除地價
一五、〇三・〇八 ^坪	九・九六二 ^円	一四九、一八・三〇 ^円

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
五八、四七、九六 ^圓	一、二七、三二・〇四 ^円	二〇、〇八、四〇八 ^円

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に従ひ地目別に掲記すれば左の如し。
整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地	宅地	内道路	一三、八八・九 ^坪	一	一三、六二・九八 ^坪	一	二二、一八・八三 ^坪	六	一
		外道路	七、八〇・七	一	七、三九	一			
		私立學敷地	一三、〇〇	一	一三、〇〇	一			
		郷村	一三、〇〇	一	一三、〇〇	一			
		社境地	一三、〇〇	一	一三、〇〇	一			
民有免租地	道	境内地	五、四〇・〇	一	四、八四・元	一	二九・七		
		路	二、六三	一		一	二六・元		
		計	八五・三六	一〇	七六・一八	三	九・一八	七	七

第五十二地區 甲 整地

合 計	公 共 用 地						社 地 警 視 地 用 地			
	計	物 共 揚 同 場 地	公 園 地	溝 渠	堤 塘	運 河 河 川		道 路		
內道路 二〇七、四九〇 外道路 二、〇三三・三	四、六四・四			一、二五〇・元	一、八五・七	一四、〇〇八・元	二七、三六・三	七、〇九・四	一、三三〇・七	三、〇〇六
八四三								三	一	二
二二一、三三・四	六、三三・元	二八〇・四	一、七九・六		!	一五、六〇・五	六〇、五三・七	一、四九・七	一、八九・八	
八九								八		二
三七、一〇三・四	三、九八・六	二八〇・四	一、七九・六			一、六三・二〇	三、一六・五			
三五、三三・八	一、四〇・三			一、二五〇・元	一、八五・七			五、三〇・七	三、〇〇六	四七・三
六										
一三〇								三	一	

國 有 免 租 地	寺 地	內 務 省 用 地	同 務 省 用 地
六八・〇〇	四	一、三九・五〇	八七・五三
六三・二〇	四		七五・〇〇
四			一
四七・九〇		一、三九・五〇	一三・五三
	四		